

四 半 期 報 告 書

(第90期第3四半期)

自 平成25年10月1日

至 平成25年12月31日



伊藤忠商事株式会社

(E02497)

目 次

	頁
表 紙	1
第一部 企業情報	2
第1 企業の概況	2
1 主要な経営指標等の推移	2
2 事業の内容	3
第2 事業の状況	4
1 事業等のリスク	4
2 経営上の重要な契約等	4
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	4
第3 提出会社の状況	19
1 株式等の状況	19
(1) 株式の総数等	19
(2) 新株予約権等の状況	19
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	19
(4) ライツプランの内容	19
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	19
(6) 大株主の状況	19
(7) 議決権の状況	20
2 役員の状況	21
第4 経理の状況	22
1 四半期連結財務諸表	23
(1) 四半期連結貸借対照表	23
(2) 四半期連結損益計算書	25
(3) 四半期連結包括損益計算書	27
(4) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	29
四半期連結財務諸表が準拠している用語、様式及び作成方法	33
四半期連結財務諸表注記	36
2 その他	82
第二部 提出会社の保証会社等の情報	83

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年2月14日
【四半期会計期間】	第90期第3四半期（自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日）
【会社名】	伊藤忠商事株式会社
【英訳名】	ITOCHU Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 岡 藤 正 広
【本店の所在の場所】	大阪市北区梅田3丁目1番3号
【電話番号】	大阪（06）7638-2121
【事務連絡者氏名】	人事・総務部 梶 山 孝 文 経 理 部 宮 田 正 紀
【最寄りの連絡場所】	東京都港区北青山2丁目5番1号
【電話番号】	東京（03）3497-2121
【事務連絡者氏名】	人事・総務部 渡 辺 隆 経 理 部 山 浦 周一郎
【縦覧に供する場所】	伊藤忠商事株式会社 東京本社 （東京都港区北青山2丁目5番1号） 伊藤忠商事株式会社 中部支社 （名古屋市中区錦1丁目5番11号） 伊藤忠商事株式会社 九州支社 （福岡市博多区博多駅前3丁目2番1号） 伊藤忠商事株式会社 中四国支社 （広島市中区中町7番32号） 伊藤忠商事株式会社 北海道支社 （札幌市中央区北三条西4丁目1番地） 伊藤忠商事株式会社 東北支社 （仙台市青葉区中央1丁目2番3号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄3丁目8番20号） 証券会員制法人福岡証券取引所 （福岡市中央区天神2丁目14番2号） 証券会員制法人札幌証券取引所 （札幌市中央区南一条西5丁目14番地の1）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第89期 第3四半期 連結累計期間	第90期 第3四半期 連結累計期間	第89期
会計期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
収益 (第3四半期連結会計期間) (百万円)	3,247,260 (1,075,159)	4,037,411 (1,444,781)	4,579,763
売上高 (第3四半期連結会計期間) (百万円)	9,273,860 (3,158,356)	10,740,018 (3,780,602)	12,551,557
売上総利益 (百万円)	667,746	750,328	915,879
法人税等及び 持分法による投資損益前利益 (百万円)	190,610	250,286	311,112
四半期(当期)純利益 (百万円)	224,180	250,981	302,670
当社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (第3四半期連結会計期間) (百万円)	208,134 (65,887)	240,326 (75,209)	280,297
四半期包括損益又は包括損益 (百万円)	253,744	390,033	507,040
当社株主に帰属する 四半期包括損益又は包括損益 (百万円)	243,302	372,865	475,819
株主資本 (百万円)	1,532,487	2,073,231	1,765,435
資本 (百万円)	1,860,086	2,441,623	2,112,619
総資産額 (百万円)	6,931,843	8,077,172	7,117,446
1株当たり株主資本 (円)	969.61	1,311.81	1,117.01
基本的1株当たり当社株主に 帰属する四半期(当期)純利益 (第3四半期連結会計期間) (円)	131.69 (41.69)	152.06 (47.59)	177.35
潜在株式調整後1株当たり当社株主 に帰属する四半期(当期)純利益 (円)	131.61	151.35	(注)4 177.35
株主資本比率 (%)	22.11	25.67	24.80
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	113,853	166,965	245,661
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△187,153	△263,517	△199,990
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	76,494	57,043	△11,323
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	524,464	536,982	569,716

(注) 1 当社の連結財務諸表は、米国会計基準に基づいて作成しております。

2 収益及び売上高には消費税等は含まれておりません。

3 売上高は日本の会計慣行に従って表示しております。

4 第89期における潜在株式調整後1株当たり当社株主に帰属する当期純利益については、当該持分法適用関連会社が発行する転換権付優先株式が逆希薄化効果を有するため、基本的1株当たり当社株主に帰属する当期純利益と同額にて表示しております。

5 百万円単位で表示している金額については、百万円未満の端数を四捨五入して表示しております。

6 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については、記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。なお、アイ・ティー・シーネットワーク(株)は平成25年10月1日にコネクシオ(株)に商号変更しております。また、第1四半期連結会計期間において、食料セグメントのDole International Holdings(株)を、主要な関係会社としております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

特記すべき事項はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において入手可能な情報に基づき、当社が合理的であると判断したものです。従って、実際の当社グループの連結業績は、潜在的リスクや不確定要素等により、予測された内容とは異なる結果となることがあります。

(1) 経済環境

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、先進国、新興国ともに緩やかなペースの拡大にとどまりました。このような状況下、原油価格（WT I ベース/1バレルあたり）は、90ドル台半ばを中心に一進一退で推移していましたが、地政学的リスクに対する懸念から9月上旬には一時110ドル台まで上昇しました。その後は地政学的リスクの後退を受けて低下へ向かい、12月末には100ドル程度となりました。

日本経済は回復基調をたどりました。個人消費や住宅投資等を中心に民間需要が回復した他、円安による価格競争力の改善を受けて輸出が緩やかに持ち直しました。また、昨年度補正予算に盛り込まれた公共事業が進行したことも、景気回復を下支えしました。

4月より導入された日本銀行による大規模な金融緩和と、米国の中央銀行による金融緩和ペースの抑制を受けて、円・ドル相場は円安傾向で推移し、4月初めの93円台が、12月末には105円台まで円安が進みました。日経平均株価は、企業業績の回復継続に対する期待から、4月初めの12,100円程度が、12月末には16,300円程度へと上昇しました。10年物国債利回りは4月初めの0.5%台から0.9%台へと急上昇する局面もありましたが、日本銀行による金融緩和策が浸透するにつれて安定を取戻し、12月末には0.7%台前半となりました。

(2) 定性的成果

上記のような経済環境下、当第3四半期連結累計期間における具体的成果は次のとおりです。

〔生活消費関連分野〕

世界最大級の青果物メジャーである米国Dole Food Company社より、当社が保有するアジアにおける青果物事業とグローバルに展開する加工食品事業を取得しました。Doleの青果物は多くの地域で高い市場シェアを有し、特にアジアにおけるバナナ、パイナップルの最大輸入国である日本市場ではトップシェアを誇っております。当社グループは顧客ニーズを起点に、食料資源の開発から原料供給、製造加工、中間流通、リーテイルまでを有機的に結びつけ、効率的な生産、流通、販売を図るSIS戦略により築き上げたグローバルベースの生産、加工、流通、販売体制を活用し、当該事業が持つ世界的に認知度の高いブランドや青果物生産・加工・販売といった経営資源と融合することで、更なるグローバル化を実現してまいります。また、当社とITOCHU Textile Prominent (ASIA)社は、高級婦人ファッションブランド「ANTEPRIMA (アンテプリマ)」の展開をはじめ、香港・中国・アジアでリーテイルビジネスなどを幅広く手がける持株会社のFenix Group Holdings社傘下のASF社（本社・香港）へ出資することに合意し、契約を締結しました。

〔基礎産業関連分野〕

当社と九州電力(株)、インドネシアのPT Medco Power Indonesia社、米国のOrmat Technologies社は、それぞれ保有する投資子会社及び共同で出資する事業会社Sarulla Operations社を通じて、インドネシア国有電力公社（以下「PLN」）及びインドネシア国有石油会社の子会社PT Pertamina Geothermal Energy社（以下「PGE」）との間で、インドネシア北スマトラ州サルラ地区にPGEが保有する地熱鉱区を開発し、出力330MWの地熱発電所を建設し、PLNに30年間売電する長期売電契約を締結しました。また、日本郵船(株)、蘭SBM Offshore社、伯Queiroz Galvão Óleo e Gás社とともに、ブラジル沖BM-S-11コンソーシアム<Petróleo Brasileiro S.A. (65%、以下「Petrobras社」）、BG E&P do Brasil LTDA (25%)、Petrogal Brasil LTDA (10%)>向けに投入したFPSO（浮体式海洋石油・ガス生産貯蔵積出設備）が原油生産に伴い操業を開始しました。本FPSOは、ブラジル沖合超水深プレソルト層にあるLula油田の開発に投入され、本プロジェクトは、開発オペレーターのPetrobras社に対し、FPSOの20年間の長期用船並びに操業を請負うオペレーション・サービスを提供します。また、日本全国に180以上の拠点をもち、輸入車業界では販売台数で国内ナンバーワンの地位を確立し、輸入車市場の中で安定した存在感を発揮し続ける(株)ヤナセの株式を追加取得し、当社持株率は39.4%となりました。

〔資源関連分野〕

大手資源会社BHP Billiton社（豪・英）の鉄鉱石事業の一部であり、西豪州に位置するJimblebar鉄鉱山を開発しているBHP Iron Ore Jimblebar社の株式を取得しました。Jimblebar鉄鉱山は豊富な埋蔵量を有し今後更なる鉱量増加が期待され、コスト競争力に優れる高品位鉄を生産する大規模露天掘の大型優良鉄鉱山であり、当社

は中長期的に見込まれる鉄鉱石の世界的な需要増に対応するため、西豪州鉄鉱石事業の供給能力を更に拡充してまいります。

(3) 業績の状況

〔当第3四半期連結累計期間〕（平成25年4月1日～平成25年12月31日）

当第3四半期連結累計期間の「収益」（「商品販売等に係る収益」及び「売買取引に係る差損益及び手数料」の合計）は、エネルギー・化学品においては石油製品取引及び化学品取引の増加等により増収、食料においてはDole事業取得等により増収、住生活・情報においては国内外の住宅資材関連事業が好調に推移したことに加え、携帯電話関連事業会社の業容拡大等により増収、機械においては自動車及びプラント関連取引の増加等により増収、加えて為替が円安になったことによる影響もあり、前第3四半期連結累計期間比7,902億円（24.3%）増収の4兆374億円となりました。

「売上総利益」は、食料においては主としてDole事業取得により増益、住生活・情報においては国内情報産業関連事業における競争激化に伴う利益率の低下はあったものの、パルプ取引及び国内外の住宅資材関連事業が好調に推移したことに加え、携帯電話関連事業会社の業容拡大等により増益、金属においては石炭価格下落の影響はあったものの、主として鉄鉱石の販売数量増加により増益、機械においては自動車、建機及びプラント関連の取引増加により増益、加えて為替が円安になったことによる影響もあり、前第3四半期連結累計期間比826億円（12.4%）増益の7,503億円となりました。

「販売費及び一般管理費」は、Dole事業取得をはじめとする新規連結子会社化に伴う経費の増加及び為替が円安になったことによる影響等により、前第3四半期連結累計期間比480億円（9.5%）増加の5,518億円となりました。

「貸倒引当金繰入額」は、前第3四半期連結累計期間の一般債権に対する貸倒引当金取崩益計上の反動等により、前第3四半期連結累計期間比37億円悪化の35億円（損失）となりました。

「受取利息」及び「支払利息」の合計である金利収支は、有利子負債は増加したものの、調達金利の低下等により、前第3四半期連結累計期間比6億円（5.6%）改善の101億円（費用）となり、「受取配当金」は、プラント関連投資及びアパレル関連投資等からの配当の増加により前第3四半期連結累計期間比20億円（17.3%）増加の135億円となりました。

その結果、金利収支に「受取配当金」を加えた金融収支は、前第3四半期連結累計期間比26億円増加の34億円（利益）となりました。

「投資及び有価証券に係る損益」は、投資有価証券売却益の増加及び投資有価証券評価損の減少等により、前第3四半期連結累計期間比213億円増加の417億円（利益）となりました。

「固定資産に係る損益」は、主として固定資産売却損益の好転により、前第3四半期連結累計期間比47億円好転の5億円（利益）となりました。

「その他の損益」は、前第3四半期連結累計期間比2億円増加の96億円（利益）となりました。

これらの結果、「法人税等及び持分法による投資損益前利益」は、前第3四半期連結累計期間比597億円（31.3%）増益の2,503億円となりました。

また、「法人税等」は、前第3四半期連結累計期間比305億円（59.5%）増加の817億円（費用）となりました。

「持分法による投資損益」は、海外パルプ事業、豪州金属資源関連事業等からの取込損益の増加及び米国石油ガス開発事業の減損損失計上額の減少はあったものの、ブラジル鉄鉱石事業における一過性の税金費用の計上、海外メタノール事業の定期修繕長期化の影響、石炭価格下落によるコロンビア石炭事業の取込損益の減少に加え、前第3四半期連結累計期間における産業資材関連事業株式の取得に伴う一過性の利益計上の反動等により、前第3四半期連結累計期間比24億円（2.8%）減少の824億円（利益）となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の四半期純利益は、前第3四半期連結累計期間比268億円（12.0%）増益の2,510億円となりました。

これより、「非支配持分に帰属する四半期純利益」107億円を控除した当第3四半期連結累計期間の「当社株主に帰属する四半期純利益」は、前第3四半期連結累計期間比322億円（15.5%）増益の2,403億円となりました。

（参考）

日本の会計慣行に基づく当第3四半期連結累計期間の「売上高」は、エネルギー・化学品においてはエネルギーのトレーディング取引及び化学品取引の増加等により増収、食料においてはDole事業取得、食料原料取引の増加及び食品流通関連子会社の取引増加等により増収、住生活・情報においてはパルプ取引及び国内外の住宅資材関連事業の好調な推移、携帯電話関連事業会社の業容拡大等により増収、機械においては船舶取引の減少はあったものの、欧州・中近東向け自動車取引の増加等により増収、加えて為替が円安になったことによる影響もあり、前第3四半期連結累計期間比1兆4,662億円増収の10兆7,400億円となりました。

「営業利益」は、繊維においては前第2四半期連結累計期間における欧州アパレル製造・卸事業取得及び新規ブランド導入等による増加はあったものの、前第3四半期連結累計期間比では一過性の経費戻り益計上の反動等により減益となった一方、金属においては主として鉄鉱石の「売上総利益」が増加したことにより増益、食料においてはDole事業取得等により増益、機械においては前第3四半期連結累計期間の貸倒引当金取崩益計上の反動はあったものの、「売上総利益」の増加等により増益となったこと等から、前第3四半期連結累計期間比309億円増益の1,951億円となりました。

〔当第3四半期連結会計期間〕（平成25年10月1日～平成25年12月31日）

当第3四半期連結会計期間の「収益」（「商品販売等に係る収益」及び「売買取引に係る差損益及び手数料」の合計）は、エネルギー・化学品においては石油製品取引及び化学品取引の増加等により増収、住生活・情報においては国内外の住宅資材関連事業の好調な推移及び携帯電話関連事業会社の業容拡大等により増収、食料においてはDole事業取得等により増収、機械においては自動車及びプラント関連取引の増加等により増収、加えて為替が円安になったことによる影響もあり、前第3四半期連結会計期間比3,696億円（34.4%）増収の1兆4,448億円となりました。

「売上総利益」は、住生活・情報においてはパルプ取引及び国内外の住宅資材関連事業の好調な推移、不動産取引の貢献に加え、携帯電話関連事業会社の業容拡大等により増益、食料においてはDole事業取得等により増益、金属においては鉄鉱石価格が前第3四半期連結会計期間比では上昇したこと及び販売数量増加に加え、海外でのソーラー関連取引の増加等により増益、機械においては自動車、建機及びプラント関連の取引増加等により増益、加えて為替が円安になったことによる影響もあり、前第3四半期連結会計期間比474億円（21.7%）増益の2,657億円となりました。

「販売費及び一般管理費」は、Dole事業取得をはじめとする新規連結子会社化に伴う経費の増加及び為替が円安になったことによる影響等により、前第3四半期連結会計期間比238億円（14.4%）増加の1,891億円となりました。

「貸倒引当金繰入額」は、ほぼ横ばいの8億円（損失）となりました。

「受取利息」及び「支払利息」の合計である金利収支は、ほぼ横ばいの35億円（費用）となり、「受取配当金」は、プラント関連投資等からの配当の増加により前第3四半期連結会計期間比8億円（21.2%）増加の48億円となりました。その結果、金利収支に「受取配当金」を加えた金融収支は、前第3四半期連結会計期間比8億円増加の14億円（利益）となりました。

「投資及び有価証券に係る損益」は、投資有価証券売却益の増加はあったものの、前第3四半期連結会計期間における投資有価証券評価益計上の反動等により、前第3四半期連結会計期間比27億円減少の56億円（利益）となりました。

「固定資産に係る損益」は、固定資産評価損の計上はあったものの固定資産売却損益が好転したこと等により、前第3四半期連結会計期間比13億円改善の2億円（損失）となりました。

「その他の損益」は、為替益が減少したこと等により、前第3四半期連結会計期間比14億円減少の33億円（利益）となりました。

これらの結果、「法人税等及び持分法による投資損益前利益」は、前第3四半期連結会計期間比216億円（33.6%）増益の857億円となりました。また、「法人税等」は、前第3四半期連結会計期間比95億円（64.8%）増加の242億円（費用）となりました。

「持分法による投資損益」は、海外パルプ事業等からの取込損益の増加、前第3四半期連結会計期間における米国石油ガス開発事業の減損損失計上の反動はあったものの、ブラジル鉄鉱石事業における一過性の税金費用の計上、CVS事業における前第3四半期連結会計期間の投資有価証券売却益計上の反動、海外メタノール事業の定期修繕長期化の影響、石炭価格下落によるコロンビア石炭事業の取込損益の減少等により、前第3四半期連結会計期間比68億円（30.6%）減少の155億円（利益）となりました。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間の「四半期純利益」は、前第3四半期連結会計期間比52億円（7.3%）増益の769億円となりました。

これより、「非支配持分に帰属する四半期純利益」17億円を控除した当第3四半期連結会計期間の「当社株主に帰属する四半期純利益」は、前第3四半期連結会計期間比93億円（14.1%）増益の752億円となりました。

（参考）

日本の会計慣行に基づく当第3四半期連結会計期間の「売上高」は、エネルギー・化学品においてはエネルギーのトレーディング取引及び化学品取引の増加等により増収、住生活・情報においてはパルプ取引及び国内外の住宅資材関連事業の好調な推移に加え、携帯電話関連事業会社の業容拡大等により増収、食料においてはDole事業取得、食料原料取引の増加及び食品流通関連子会社の取引増加等により増収、金属においては鉄鉱石価格が前第3四半期連結会計期間比では上昇したこと及び販売数量増加に加え、非鉄金属製品の取引増加等により増収、

加えて為替が円安になったことによる影響もあり、前第3四半期連結会計期間比6,222億円増収の3兆7,806億円となりました。

「営業利益」は、金属においては主として鉄鉱石の「売上総利益」の増加及び海外でのソーラー関連取引の増加等により増益、住生活・情報においては「売上総利益」の増加及び欧州タイヤ事業の経費削減等により増益、食料においてはDole事業取得等により増益、機械においては主として「売上総利益」の増加により増益となったこと等から、前第3四半期連結会計期間比236億円増益の757億円となりました。

(4) オペレーティングセグメント別業績

当第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結会計期間における、オペレーティングセグメント別の業績は次のとおりです。当社は6つのディビジョンカンパニーにより以下の区分にて、オペレーティングセグメント別業績を記載しております。

〔当第3四半期連結累計期間〕（平成25年4月1日～平成25年12月31日）

① 繊維カンパニー

売上高（セグメント間内部売上高を除く。以下同様）は、欧州アパレル製造・卸事業取得（前第2四半期連結会計期間）に伴う増加、中国向け繊維原料取引の増加及び新規ブランド導入に伴う取扱増加等により、前第3四半期連結累計期間比469億円（10.6%）増収の4,882億円となりました。売上総利益は、欧州アパレル製造・卸事業取得に伴う増加、中国向け繊維原料取引の増加及び新規ブランドの導入等により、前第3四半期連結累計期間比17億円（1.8%）増益の967億円となりました。当社株主に帰属する四半期純利益は、売上総利益、受取配当金、投資及び有価証券損益の増加はあったものの、前第3四半期連結累計期間の一過性の経費戻り益の反動及び持分法投資損益における一過性利益の反動等により、前第3四半期連結累計期間比9億円（3.7%）減益の237億円となりました。セグメント別資産は、季節要因によるたな卸資産及び営業債権の増加等により、前連結会計年度末比313億円（6.4%）増加の5,182億円となりました。

② 機械カンパニー

売上高は、欧州・中近東向け自動車取引の増加及び円安の影響等があり、船舶取引の減少はあったものの、前第3四半期連結累計期間比1,390億円（18.1%）増収の9,048億円となりました。売上総利益は、自動車、建機及びプラント関連の取引増加に加え、円安の影響等があり、前第3四半期連結累計期間比110億円（17.1%）増益の754億円となりました。当社株主に帰属する四半期純利益は、売上総利益の増加に加え、受取配当金の増加、投資及び有価証券損益の好転並びに持分法投資損益の増加等があり、前第3四半期連結累計期間の貸倒引当金取崩益計上の反動はあったものの、前第3四半期連結累計期間比105億円（46.8%）増益の329億円となりました。セグメント別資産は、円安に伴う増加、株価上昇に伴う投資有価証券の含み益増加及び国内外における自動車関連事業の新規・追加投資実行等に伴い、前連結会計年度末比695億円（7.8%）増加の9,604億円となりました。

③ 金属カンパニー

売上高は、鉄鉱石の販売数量増加、非鉄金属製品の取引増加及び円安の影響等があり、前第3四半期連結累計期間比1,097億円（25.6%）増収の5,387億円となりました。売上総利益は、鉄鉱石の販売数量増加及び円安の影響等があり、石炭価格下落の影響はあったものの、前第3四半期連結累計期間比186億円（33.1%）増益の749億円となりました。当社株主に帰属する四半期純利益は、売上総利益は増加したものの、前第3四半期連結累計期間における投資有価証券売却益計上の反動、持分法投資損益においてブラジル鉄鉱石事業における一過性の税金費用の計上等もあり、前第3四半期連結累計期間比23億円（4.0%）減益の568億円となりました。セグメント別資産は、豪州資源開発関連事業への新規投融資実行及び円安の影響等により、前連結会計年度末比1,279億円（10.9%）増加の1兆3,031億円となりました。

④ エネルギー・化学品カンパニー

売上高は、エネルギーのトレーディング取引及び化学品取引の増加に加え、円安の影響等があり、前第3四半期連結累計期間比5,999億円（15.2%）増収の4兆5,457億円となりました。売上総利益は、エネルギーのトレーディング取引における採算改善及び化学品取引の増加等があり、開発原油取引における船積数減少及び英領北海エネルギー権益の売却（前第4四半期連結会計期間）に伴う減少はあったものの、前第3四半期連結累計期間比30億円（2.5%）増益の1,193億円となりました。当社株主に帰属する四半期純利益は、売上総利益の増加、投資及び有価証券損益の増加並びに米国石油ガス開発事業における減損損失計上額の減少等があった一方、前第3四半期連結累計期間の貸倒引当金取崩益計上の反動、メタノール事業における定期修繕長期化及びバイオエタノール事業における一過性の損失計上はあったものの、前第3四半期連結累計期間比21億円（15.3%）増益の157億円となりました。セグメント別資産は、冬場の需要に備えたエネルギー在庫の積増し及び営業債権の増加等があり、前連結会計年度末比1,050億円（7.9%）増加の1兆4,402億円となりました。

⑤ 食料カンパニー

売上高は、Dole事業取得に伴う増加、食料原料取引の増加及び食品流通関連子会社の取引増加等により、前第3四半期連結累計期間比3,172億円（12.4%）増収の2兆8,721億円となりました。売上総利益は、主としてDole事業取得に伴う増加により、前第3四半期連結累計期間比298億円（19.3%）増益の1,841億円となりました。当社株主に帰属する四半期純利益は、Dole事業取得に伴う増加及び食品流通関連子会社における固定資産損益の好転等があり、持分法投資損益の減少はあったものの、前第3四半期連結累計期間比38億円（9.8%）増益の421億円となりました。セグメント別資産は、Dole事業取得に加え、食品流通関連子会社における季節要因による営業債権及びたな卸資産の増加等があり、前連結会計年度末比3,653億円（26.7%）増加の1兆7,355億円となりました。

⑥ 住生活・情報カンパニー

売上高は、パルプ取引及び国内外の住宅資材関連事業の好調な推移、携帯電話関連事業会社の業容拡大に加え、円安の影響等があり、前第3四半期連結累計期間比2,278億円（20.8%）増収の1兆3,226億円となりました。売上総利益は、パルプ取引及び国内外の住宅資材関連事業の好調な推移、携帯電話関連事業会社の業容拡大に加え、円安の影響等があり、国内情報産業関連事業における競争激化に伴う利益率の低下はあったものの、前第3四半期連結累計期間比219億円（12.7%）増益の1,940億円となりました。当社株主に帰属する四半期純利益は、売上総利益の増加に加え、投資及び有価証券損益、持分法投資損益の増加等により、前第3四半期連結累計期間比202億円（55.8%）増益の565億円となりました。セグメント別資産は、携帯電話関連事業会社の連結子会社化、不動産関連事業及び国内情報産業関連事業におけるたな卸資産の増加、並びに円安の影響等により、前連結会計年度末比2,145億円（15.7%）増加の1兆5,779億円となりました。

⑦ その他及び修正消去

売上高は、北米設備資材取引の増加及び円安の影響等があり、前第3四半期連結累計期間比255億円（60.3%）増収の679億円となりました。売上総利益は、北米設備資材取引の増加はあったものの、為替評価益の減少及び修正消去の増加等により、前第3四半期連結累計期間比34億円（36.1%）減益の60億円となりました。当社株主に帰属する四半期純利益は、固定資産損益の好転、投資及び有価証券損益の増加はあったものの、主として前第3四半期連結累計期間の税効果実現の反動があり、前第3四半期連結累計期間比11億円（8.0%）減益の127億円となりました。セグメント別資産は、修正消去の減少等により、前連結会計年度末比462億円（9.3%）増加の5,419億円となりました。

〔当第3四半期連結会計期間〕（平成25年10月1日～平成25年12月31日）

① 繊維カンパニー

売上高は、中国向け繊維原料取引の増加及び新規ブランド導入に伴う取扱増加等により、前第3四半期連結会計期間比178億円（11.7%）増収の1,692億円となりました。売上総利益は、中国向け繊維原料取引の増加及び新規ブランド導入等により、前第3四半期連結会計期間比3億円（1.0%）増益の340億円となりました。当社株主に帰属する四半期純利益は、売上総利益の増加に加え、投資及び有価証券損益の増加等があり、経費の増加はあったものの、前第3四半期連結会計期間比8億円（12.5%）増益の74億円となりました。

② 機械カンパニー

売上高は、欧州・アフリカ・中近東向け自動車取引の増加及び円安の影響等があり、前第3四半期連結会計期間比460億円（17.3%）増収の3,115億円となりました。売上総利益は、自動車、建機及びプラント関連の取引増加に加え、円安の影響等があり、前第3四半期連結会計期間比43億円（19.8%）増益の259億円となりました。当社株主に帰属する四半期純利益は、売上総利益及び受取配当金の増加等があり、前第3四半期連結会計期間の投資有価証券売却益計上の反動及び持分法投資損益の減少はあったものの、前第3四半期連結会計期間比11億円（14.5%）増益の87億円となりました。

③ 金属カンパニー

売上高は、鉄鉱石価格が前第3四半期連結会計期間比では上昇したこと及び販売数量増加、非鉄金属製品の取引増加並びに円安の影響等があり、前第3四半期連結会計期間比509億円（36.3%）増収の1,911億円となりました。売上総利益は、鉄鉱石価格が上昇したこと及び販売数量増加、海外でのソーラー関連取引の増加並びに円安の影響等があり、前第3四半期連結会計期間比94億円（54.6%）増益の265億円となりました。当社株主に帰属する四半期純利益は、売上総利益は増加したものの、持分法投資損益においてブラジル鉄鉱石事業における一過性の税金費用の計上等もあり、前第3四半期連結会計期間比13億円（8.3%）減益の148億円となりました。

④ エネルギー・化学品カンパニー

売上高は、エネルギーのトレーディング取引及び化学品取引の増加に加え、円安の影響等があり、前第3四半期連結会計期間比2,015億円（14.7%）増収の1兆5,701億円となりました。売上総利益は、エネルギーのトレーディング取引における採算改善、化学品取引の増加及び円安の影響等があり、前第3四半期連結会計期間比37億円（10.0%）増益の405億円となりました。当社株主に帰属する四半期純利益は、売上総利益の増加及び前第3四半期連結会計期間の米国石油ガス開発事業における減損損失計上の反動があった一方、メタノール事業における定期修繕長期化及びバイオエタノール事業における一過性の損失計上はあったものの、前第3四半期連結会計期間比55億円好転の42億円となりました。

⑤ 食料カンパニー

売上高は、Dole事業取得に伴う増加、食料原料取引の増加及び食品流通関連子会社の取引増加等により、前第3四半期連結会計期間比1,389億円（15.9%）増収の1兆144億円となりました。売上総利益は、主としてDole事業取得に伴う増加により、前第3四半期連結会計期間比117億円（22.4%）増益の637億円となりました。当社株主に帰属する四半期純利益は、Dole事業取得に伴う増加及び食品流通関連子会社における固定資産損益の好転等があり、持分法投資損益の減少はあったものの、前第3四半期連結会計期間比31億円（24.2%）増益の161億円となりました。

⑥ 住生活・情報カンパニー

売上高は、パルプ取引及び国内外の住宅資材関連事業の好調な推移、携帯電話関連事業会社の業容拡大に加え、円安の影響等があり、前第3四半期連結会計期間比1,546億円（44.8%）増収の4,994億円となりました。売上総利益は、パルプ取引及び国内外の住宅資材関連事業の好調な推移、不動産取引の貢献、携帯電話関連事業会社の業容拡大に加え、円安の影響等があり、前第3四半期連結会計期間比185億円（35.1%）増益の712億円となりました。当社株主に帰属する四半期純利益は、売上総利益及び持分法投資損益の増加等があり、投資及び有価証券損益は減少したものの、前第3四半期連結会計期間比37億円（29.2%）増益の166億円となりました。

⑦ その他及び修正消去

売上高は、北米設備資材取引の増加及び円安の影響等があり、前第3四半期連結会計期間比125億円（101.1%）増収の249億円となりました。売上総利益は、為替評価益の減少等により、前第3四半期連結会計期間比5億円（11.0%）減益の38億円となりました。当社株主に帰属する四半期純利益は、主として前第3四半期連結会計期間の税効果実現の反動があり、前第3四半期連結会計期間比37億円（33.5%）減益の74億円となりました。

(5) 主な連結子会社及び持分法適用関連会社の業績

① 黒字・赤字会社別損益及び黒字会社率

黒字・赤字会社別損益

(単位：億円)

	前第3四半期連結累計期間			当第3四半期連結累計期間			増減		
	黒字会社	赤字会社	合計	黒字会社	赤字会社	合計	黒字会社	赤字会社	合計
事業会社損益	1,788	△151	1,637	2,077	△190	1,887	289	△39	250
海外現地法人損益	174	△0	174	253	△1	252	79	△1	78
連結対象会社合計	1,963	△152	1,811	2,330	△191	2,139	367	△39	328

黒字会社率 (注)

	前第3四半期連結累計期間			当第3四半期連結累計期間			増減		
	国内	海外	合計	国内	海外	合計	国内	海外	合計
黒字会社数	118	169	287	113	170	283	△5	1	△4
連結対象会社数	145	215	360	140	213	353	△5	△2	△7
黒字会社率 (%)	81.4	78.6	79.7	80.7	79.8	80.2	△0.7	1.2	0.4

当第3四半期連結累計期間の事業会社損益（海外現地法人を除いた連結子会社及び持分法適用関連会社の当社持分損益の合計）は、前第3四半期連結累計期間比250億円増加の1,887億円の利益となりました。また、海外現地法人損益は、前第3四半期連結累計期間比78億円増加の252億円の利益となりました。

黒字事業会社損益と黒字海外現地法人損益を合計した黒字会社損益は、ITOCHU Minerals & Energy of Australia Pty Ltdの主として鉄鉱石の販売数量増加による増益、Dole International Holdings(株)の取込開始（第1四半期連結会計期間より）、欧州パルプ関連事業会社（METSА FIBRE社）における堅調な市況の推移によるITOCHU FIBRE LIMITEDの増益、採算改善によるITOCHU PETROLEUM CO., (SINGAPORE) PTE. LTD.の好転等により、前第3四半期連結累計期間比367億円増加の2,330億円の利益となりました。一方、赤字事業会社損益と赤字海外現地法人損益を合計した赤字会社損益は、ロシア市場の供給過剰に伴う販売不振によりLLC ITRの取込損益が悪化したこと等があり、前第3四半期連結累計期間比39億円悪化の191億円の損失となりました。

黒字会社率（連結対象会社数に占める黒字会社数の比率）については、前第3四半期連結累計期間の79.7%から0.4ポイント改善の80.2%となりました。

(注) 会社数には、親会社の一部と考えられる投資会社（125社）及び当社もしくは当社の海外現地法人が直接投資している会社を除くその他の会社（468社）を含めておりません。

② 主な黒字会社及び赤字会社の取込損益

〔当第3四半期連結累計期間〕（平成25年4月1日～平成25年12月31日）

主な黒字会社

（単位：億円）

	取込比率 （%）	取込損益（注）1			増減コメント
		前第3四 半期連結 累計期間	当第3四 半期連結 累計期間	増減	
国内連結子会社					
(株)日本アクセス	93.8	87	78	△9	冷凍食品・日配食品の取引増加等があったものの、利益率低下及び投資有価証券評価損計上等により減益
Dole International Holdings(株)	100.0	—	66	66	Dole事業取得及び取込開始(第1四半期連結会計期間)による
コネクシオ(株) (注) 2	60.3	37	45	8	主として再評価益増が寄与し増益
(株)シーエフアイ	74.1	28	31	3	前第3四半期連結累計期間でのペプシボトリング事業買収に伴う一過性利益の反動はあったものの、飲料及び即席麺事業が堅調に推移したことにより増益
伊藤忠テクノソリューションズ(株)	57.2	47	31	△16	携帯キャリア向けビジネスの減収及び競争激化に伴う利益率の低下等により減益
伊藤忠建材(株)	100.0	12	25	12	新設住宅着工件数増加に伴う住宅資材の販売増及び合板価格上昇に加え、投資有価証券売却益計上により増益
伊藤忠エネクス(株)	54.0	19	24	5	電力取引が好調に推移したことに加え、投資有価証券売却益計上により増益
伊藤忠ケミカルフロンティア(株)	100.0	23	24	1	営業取引が堅調に推移したことに加え、投資有価証券売却益計上により増益
伊藤忠プラスチック(株)	100.0	15	21	6	合成樹脂、電材を中心に輸出が好調に推移したことにより増益
(株)三景	100.0	14	15	1	円安に伴う原価率悪化による減益はあったものの、子会社買収による新規連結及び投資有価証券売却益計上により増益
日伯鉄鉱石(株)	67.5	80	13	△67	円安の影響はあったものの、ブラジル投資先での一過性の税金費用の計上により減益

(単位：億円)

	取 込 比 率 (%)	取込損益 (注) 1			増減コメント
		前第3四 半期連結 累計期間	当第3四 半期連結 累計期間	増減	
海外連結子会社					
ITOCHU Minerals & Energy of Australia Pty Ltd (注) 3	100.0	368	486	119	鉄鉱石は販売数量の増加及び為替の影響により 増益、石炭は若干の赤字だが前第3四半期連結 累計期間比ほぼ横ばい
伊藤忠インターナショナル会 社	100.0	60	68	8	食料関連事業が低調に推移したことに加え、前 第3四半期連結累計期間の機械関連事業におけ る税効果計上の反動等があったものの、住宅資 材関連事業の堅調な推移及び円安の影響もあり 増益
ITOCHU Oil Exploration (Azerbaijan) Inc.	100.0	88	66	△22	円安の影響はあったものの、船積数減少により 減益
ITOCHU FIBRE LIMITED (注) 4	100.0	12	50	38	欧州パルプ関連事業会社 (METS FIBRE社)にお いて、堅調な市況の推移に加え、フィンランド における税率変更による税金費用の減少及び円 安の影響等により増益
European Tyre Enterprise Limited (注) 4	100.0	20	46	26	需要の堅調な推移及び経費削減に加え、英国に おける税率変更による税金費用の減少等により 増益
伊藤忠 (中国) 集团有限公司	100.0	32	40	9	前第3四半期連結累計期間における投資有価証 券売却益計上の反動はあったものの、化学品関 連事業、機械関連事業の堅調な推移及び円安の 影響もあり増益
伊藤忠香港会社 (注) 5	100.0	24	39	15	生活資材関連取引の増加、建設関連の投資持分 売却益計上、繊維関連事業の取込損益増加に加 え、円安の影響により増益
伊藤忠欧州会社 (注) 4	100.0	7	35	28	タイヤ事業、パルプ事業及びソーラー関連事業 の取込損益増加に加え、前第3四半期連結累計 期間の一過性損失の反動等により増益
ITOCHU PETROLEUM CO., (SINGAPORE) PTE. LTD.	100.0	△3	34	37	原重油トレーディング取引の採算改善により好 転
伊藤忠豪州会社 (注) 3	100.0	14	21	7	ITOCHU Minerals & Energy of Australia Pty Ltdの取込利益増加により増益
伊藤忠タイ会社	100.0	16	20	3	金融関連事業の取込利益増加、繊維衛材取引の 増加及び円安の影響により増益
ITOCHU Textile Prominent (ASIA) Ltd. (注) 5	100.0	10	18	8	タイの生地製造・販売事業会社の売却益計上に より増益

(単位：億円)

	取 込 比 率 (%)	取込損益 (注) 1			増減コメント
		前第3四 半期連結 累計期間	当第3四 半期連結 累計期間	増減	
国内持分法適用関連会社					
伊藤忠丸紅鉄鋼(株)	50.0	84	96	12	国内事業会社が堅調に推移したことに加え、円安の影響により増益
東京センチュリーリース(株)	25.1	42	65	23	業績好調に加え、オート事業の拡大等により増益
(株)ファミリーマート	31.5	81	64	△17	中国の不採算店閉鎖等による採算改善及び海外事業の増益等があったものの、前第3四半期連結累計期間のタイ事業スキーム再編に伴う投資有価証券売却益計上の反動により、全体としては減益
(株)オリエントコーポレーション (注) 6	25.8	16	38	21	貸倒引当金繰入額の減少等により増益
日伯紙パルプ資源開発(株)	32.1	15	31	16	パルプ価格上昇及びブラジルリアル安(対US\$)により増益
海外持分法適用関連会社					
PT. KARAWANG TATABINA INDUSTRIAL ESTATE	50.0	8	21	13	販売価格の上昇及びインドネシアルピア安(対US\$)により増益

主な赤字会社

(単位：億円)

	取 込 比 率 (%)	取込損益 (注) 1			増減コメント
		前第3四 半期連結 累計期間	当第3四 半期連結 累計期間	増減	
海外連結子会社					
JD Rockies Resources Limited	100.0	△77	△17	60	米国石油ガス開発事業会社においてガス価格の上昇に伴う収益力の回復に加え、減損損失計上額の減少があり改善
LLC ITR	100.0	△1	△15	△14	ロシア市場の供給過剰に伴う販売不振により悪化

〔当第3四半期連結会計期間〕（平成25年10月1日～平成25年12月31日）

主な黒字会社

（単位：億円）

	取 込 比 率 (%)	取込損益（注）1			増減コメント
		前第3四 半期連結 会計期間	当第3四 半期連結 会計期間	増減	
国内連結子会社					
（株）日本アクセス	93.8	22	19	△3	冷凍食品・日配食品の取引増加等があったものの、利益率低下により減益
Dole International Holdings(株)	100.0	—	25	25	Dole事業取得及び取込開始（第1四半期連結会計期間）による
コネクシオ(株)（注）2	60.3	31	7	△24	前第3四半期連結会計期間での再評価益計上の反動により減益
（株）シーエフアイ	74.1	9	17	8	飲料及び即席麺事業が堅調に推移したことにより増益
伊藤忠テクノソリューションズ(株)	57.2	17	12	△5	携帯キャリア向けビジネスの減収及び競争激化に伴う利益率の低下等により減益
伊藤忠建材(株)	100.0	4	5	2	新設住宅着工件数増加に伴う住宅資材の販売増及び合板価格上昇により増益
伊藤忠エネクス(株)	54.0	10	7	△3	主として灯油をはじめとする石油製品の国内需要減退が影響したことにより減益
伊藤忠ケミカルフロンティア(株)	100.0	8	8	△0	前第3四半期連結会計期間における投資有価証券売却益計上の反動はあったものの、営業取引が堅調に推移したことによりほぼ横ばい
伊藤忠プラスチック(株)	100.0	4	7	2	合成樹脂、電材を中心に輸出が好調に推移したことにより増益
（株）三景	100.0	5	6	2	円安に伴う原価率悪化はあったものの、子会社買収による新規連結及び投資有価証券売却益計上により増益
日伯鉄鉱石(株)	67.5	22	△52	△74	ブラジル投資先での一過性の税金費用の計上により悪化

(単位：億円)

	取 込 比 率 (%)	取込損益 (注) 1			増減コメント
		前第3四 半期連結 会計期間	当第3四 半期連結 会計期間	増減	
海外連結子会社					
ITOCHU Minerals & Energy of Australia Pty Ltd (注) 3	100.0	116	155	39	鉄鉱石は価格上昇及び販売数量増に加え、為替の影響により増益、石炭は当第3四半期連結会計期間では若干の黒字
伊藤忠インターナショナル会社	100.0	10	20	10	機械セグメントが堅調であったことに加え、円安の影響もあり増益
ITOCHU Oil Exploration (Azerbaijan) Inc.	100.0	15	23	8	主として円安の影響により増益
ITOCHU FIBRE LIMITED (注) 4	100.0	6	29	24	欧州パルプ関連事業会社 (METSА FIBRE社)において、堅調な市況の推移に加え、フィンランドにおける税率変更による税金費用の減少及び円安の影響等により増益
European Tyre Enterprise Limited (注) 4	100.0	14	14	△1	暖冬により取扱数量は減少したものの、利益率の改善及び経費の減少によりほぼ横ばい
伊藤忠 (中国) 集团有限公司	100.0	17	12	△5	化学品関連事業会社の新規取得に伴う増加はあったものの、前第3四半期連結会計期間における投資有価証券売却益計上の反動があり減益
伊藤忠香港会社 (注) 5	100.0	8	16	7	建設関連の投資持分売却益計上及び繊維関連事業の取込損益増に加え、円安の影響により増益
伊藤忠欧州会社 (注) 4	100.0	5	13	7	パルプ事業及びソーラー関連事業の取込損益増加により増益
ITOCHU PETROLEUM CO., (SINGAPORE) PTE. LTD.	100.0	3	15	13	原重油トレーディング取引の採算改善により増益
伊藤忠豪州会社 (注) 3	100.0	4	8	4	ITOCHU Minerals & Energy of Australia Pty Ltdの取込利益増加により増益
伊藤忠タイ会社	100.0	5	6	1	非鉄金属関連取引の減少はあったものの、繊維衛材取引の増加及び円安の影響により増益
ITOCHU Textile Prominent (ASIA) Ltd. (注) 5	100.0	3	13	10	タイの生地製造・販売事業会社の売却益計上により増益

(単位：億円)

	取 込 比 率 (%)	取込損益 (注) 1			増減コメント
		前第3四 半期連結 会計期間	当第3四 半期連結 会計期間	増減	
国内持分法適用関連会社					
伊藤忠丸紅鉄鋼(株)	50.0	34	31	△3	円安の影響はあったものの、前第3四半期連結会計期間における海外事業会社好調の反動により減益
東京センチュリーリース(株)	25.1	13	21	8	業績好調に加え、オート事業の拡大等により増益
(株)ファミリーマート	31.5	40	19	△21	前第3四半期連結会計期間におけるタイ事業スキーム再編に伴う投資有価証券売却益計上の反動等により減益
(株)オリエントコーポレーション (注) 6	25.8	7	13	6	貸倒引当金繰入額の減少等により増益
日伯紙パルプ資源開発(株)	32.1	5	9	4	パルプ価格上昇及びブラジルリアル安(対US\$)により増益
海外持分法適用関連会社					
PT. KARAWANG TATABINA INDUSTRIAL ESTATE	50.0	0	1	1	インドネシアルピア安(対US\$)に伴う為替評価益計上により増益

主な赤字会社

(単位：億円)

	取 込 比 率 (%)	取込損益 (注) 1			増減コメント
		前第3四 半期連結 会計期間	当第3四 半期連結 会計期間	増減	
海外連結子会社					
JD Rockies Resources Limited	100.0	△69	0	70	主として前第3四半期連結会計期間の減損損失計上の反動があり好転
LLC ITR	100.0	1	△4	△4	ロシア市場の供給過剰に伴う販売不振により悪化

- (注) 1 取込損益には米国会計基準修正後の数値を記載しておりますので、各社が公表している数値とは異なる場合があります。
- 2 コネクシオ(株)は平成25年10月1日にアイ・ティール・シーネットワーク(株)より商号変更しております。また、取込損益には再評価益(当第3四半期連結累計期間33億円、前第3四半期連結累計期間25億円、いずれも税効果控除後)を含んでおります。
- 3 伊藤忠豪州会社の取込損益には、ITOCHU Minerals & Energy of Australia Pty Ltdの取込損益の3.7%を含んでおります。
- 4 伊藤忠欧州会社の取込損益には、European Tyre Enterprise Limitedの取込損益の20.0%及びITOCHU FIBRE LIMITEDの取込損益の10.0%を含んでおります。
- 5 伊藤忠香港会社の取込損益には、ITOCHU Textile Prominent (ASIA) Ltd.の取込損益の30.0%を含んでおります。また、前第3四半期連結累計期間及び前第3四半期連結会計期間のITOCHU Textile Prominent (ASIA) Ltd.の取込損益には前連結会計年度の繊維原料・テキスタイル事業再編に伴い、本社の直接投資から間接投資に変更となった関連会社の取込損益を含んでおります。
- 6 (株)オリエントコーポレーションの取込損益には、付随する税効果を含めて表示しております。
- 7 当第3四半期連結会計期間における黒字会社と赤字会社の区分は、当第3四半期連結累計期間における損益により判定しております。

(6) 財政状態

当第3四半期連結会計期間末の「総資産」は、エネルギー・化学品、食料における季節要因等による「営業債権」及び「たな卸資産」の増加、Dole事業取得をはじめとする新規連結子会社化に伴う「たな卸資産」、「有形固定資産」、「その他の資産」等の増加、金属関連における豪州資源開発関連事業への新規投融資の実行、加えて為替が円安になったことによる影響等もあり、前連結会計年度末比9,597億円（13.5%）増加の8兆772億円となりました。

有利子負債は、Dole事業取得に伴う借入金の増加等により、前連結会計年度末比2,661億円（9.6%）増加の3兆286億円となり、現預金控除後のネット有利子負債は、前連結会計年度末比2,987億円（13.7%）増加の2兆4,843億円となりました。

「株主資本」は、配当金の支払等はあったものの、「当社株主に帰属する四半期純利益」の積上げ及び円安・株高の影響等による「累積その他の包括損益」の好転により、前連結会計年度末比3,078億円（17.4%）増加の2兆732億円となりました。

その結果、株主資本比率は、前連結会計年度末比0.9ポイント上昇の25.7%となり、NET DER（ネット有利子負債対株主資本倍率）は、前連結会計年度末比若干改善し1.20倍となりました。

「株主資本」に「非支配持分」を加えた「資本」は、前連結会計年度末比3,290億円（15.6%）増加の2兆4,416億円となりました。

(7) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における「現金及び現金同等物」は、前連結会計年度末比327億円（5.7%）減少の5,370億円となりました。

当第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

〔当第3四半期連結累計期間〕（平成25年4月1日～平成25年12月31日）

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、食料、建設、情報、エネルギー等においてたな卸資産が増加したものの、海外資源取引等において営業取引収入が堅調に推移したことに加え、機械、情報、食料等において資金回収を着実に行ったこと等により、1,670億円のネット入金となりました。前第3四半期連結累計期間に比し、531億円のネット入金増加となっております。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、Dole事業取得及び豪州資源開発関連事業への新規投融資実行等により、2,635億円のネット支払となりました。前第3四半期連結累計期間に比し、764億円のネット支払増加となっております。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、新規投融資の実行等に伴う借入金の増加等により、570億円のネット入金となりました。前第3四半期連結累計期間に比し、195億円のネット入金減少となっております。

〔当第3四半期連結会計期間〕（平成25年10月1日～平成25年12月31日）

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結会計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、海外資源及び機械関連の取引等において営業取引収入が堅調に推移したこと等により、399億円のネット入金となりました。前第3四半期連結会計期間に比し、328億円のネット入金増加となっております。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結会計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、保有株式の売却はあったものの、資源開発関連における追加の設備投資等があったことにより、257億円のネット支払となりました。前第3四半期連結会計期間に比し、262億円のネット支払増加となっております。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結会計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済等により、666億円のネット支払となりました。前第3四半期連結会計期間に比し、1,447億円のネット支払増加となっております。

(8) 流動性と資金の源泉

当社グループは、安定的な資金確保と資金コスト低減のため、長期調達比率の向上に努めながら、調達先の分散や調達方法・手段の多様化を図り、銀行借入等の間接金融とコマーシャル・ペーパー及び社債の発行による直接金融を、金融情勢の変化に応じて機動的に活用しております。

また、当第3四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物、定期預金（合計5,443億円）のほかコミットメントライン契約（円貨長期3,500億円、外貨短期500百万米ドル）を有しており不測の事態にも十分な流動性準備を確保していると考えております。

(9) 対処すべき課題

- ・中期経営計画「Brand-new Deal 2014」の推進

当社グループは、前中期経営計画「Brand-new Deal 2012」（2011年度から2012年度までの2ヵ年計画）で掲げたビジネスの基本である「稼ぐ」「削る」「防ぐ」を引継ぎ、更なる成長を実現するために、次なる中期経営計画として「Brand-new Deal 2014」（2013年度から2014年度までの2ヵ年計画）を策定し、推進しております。前中期経営計画の基本方針である「現場力強化」「攻めの徹底」「規模の拡大」を継承し発展させる形で、新たに以下の3点を「Brand-new Deal 2014」の基本方針として掲げております。

1点目は「収益拡大」です。前中期経営計画期間中に実行した約9,700億円の新規投資案件の着実な育成と収益の拡大を図ると同時に、既存ビジネスにおいても経営改善努力を継続し収益性の向上を実現していきます。更に、2ヵ年でネット8,000億円、グロス投資ベースで1兆円を上限とした新規投資を優良案件に厳選したうえで積極的に取組み、更なる収益基盤の拡充を実現します。

2点目は「バランスの取れた成長」です。新規投資については非資源と資源のバランスを考慮し、当社の強みである生活消費関連の更なる強化や、機械や化学品等の基礎産業関連の収益の底上げを実現し、非資源No.1商社を目指していきます。更に、国内ビジネスやトレードビジネスの再強化にも注力します。

3点目は「財務規律遵守と低重心経営」です。積極的な投資実行と並行して、営業キャッシュフローの拡大や政策目的保有株式のEXIT等を促進するとともに、収益の積上げによる株主資本の拡充を進めます。NET DEBについて健全な水準を維持していきます。また、引続き売総経費率の改善に努め、不透明な経営環境の中で経営の低重心化を実践していきます。

経営基盤の強化にも引続き取組みます。海外コンプライアンス体制の強化を継続するとともに、国内外における贈収賄・独禁法リスクについても、実効的・効率的な調査・モニタリング体制の構築を図ります。また、コーポレート・ガバナンスについては、複数名の社外取締役を含む取締役会と社外監査役が半数以上を占める監査役会を基礎とした現状の企業統治体制を維持します。

(10) 重要な会計方針

前連結会計年度の有価証券報告書に記載した重要な会計方針について重要な変更はありません。

(11) 研究開発活動

特記すべき事項はありません。

(12) 従業員数

当第3四半期連結累計期間において、前連結会計年度末に比し、連結会社の従業員数が26,253名及び臨時従業員数が17,749名それぞれ増加し、当第3四半期連結会計期間末日現在で従業員数が103,766名、臨時従業員数が38,508名となっております。その主な理由は、食料セグメントのDole事業取得及び住生活・情報セグメントのコネクシオ(株)の子会社化によるものです。

なお、コネクシオ(株)は平成25年10月1日にアイ・ティー・シーネットワーク(株)より商号変更しております。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	3,000,000,000
計	3,000,000,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年12月31日現在)	提出日現在発行数(株) (平成26年2月14日現在)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	1,584,889,504	1,584,889,504	東京(市場第一部)、 名古屋(市場第一部)、 福岡、札幌各証券取引所	単元株式数 100株
計	1,584,889,504	1,584,889,504	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年10月1日～ 平成25年12月31日	—	1,584,889	—	202,241	—	11,393

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 3,143,500	—	単元株式数 100株
	（相互保有株式） 普通株式 4,179,000	—	同上
完全議決権株式（その他）	普通株式 1,576,294,200	15,762,942	同上
単元未満株式	普通株式 1,272,804	—	1単元（100株）未満の株式
発行済株式総数	1,584,889,504	—	—
総株主の議決権	—	15,762,942	—

(注) 1 「完全議決権株式（その他）」欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が5,000株（議決権50個）含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式及び相互保有株式が次のとおり含まれております。

伊藤忠商事株式会社 10株、サンコール株式会社 52株、タキロン株式会社 75株

② 【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
[自己保有株式] 伊藤忠商事株式会社	大阪市北区梅田 3丁目1番3号	3,143,500	—	3,143,500	0.20
[相互保有株式] 綾羽株式会社	大阪市中央区南本町 3丁目6番14号	2,100,000	—	2,100,000	0.13
サンコール株式会社	京都市右京区梅津 西浦町14番地	1,062,700	—	1,062,700	0.07
不二製油株式会社	大阪市中央区西心斎橋 2丁目1番5号	808,000	—	808,000	0.05
ワタキューセイモア 株式会社	京都府綴喜郡井手町大 字多賀小字茶臼塚12番 地の2	89,700	—	89,700	0.01
タキロン株式会社	大阪市北区梅田 3丁目1番3号	51,900	—	51,900	0.00
株式会社中部メイカン	岐阜県大垣市大井 4丁目25番地の5	50,000	—	50,000	0.00
O C I 株式会社	神戸市西区高塚台 4丁目3番地の6	16,700	—	16,700	0.00
計	—	7,322,500	—	7,322,500	0.46

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当第3四半期累計期間において、役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成23年内閣府令第44号）に従い、改正後の「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下『四半期連結財務諸表規則』という。）附則第4条の規定により、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（以下、『米国会計基準』という。）に基づいて作成しております。

四半期連結財務諸表の記載金額は、百万円未満の端数を四捨五入して表示しております。

2 四半期連結財務諸表の作成状況及び米国証券取引委員会における登録状況について

当社は、昭和39年にルクセンブルグ証券取引所において、転換社債及び株式預託証券を上場した際の証券取引所との上場誓約書及び株式の預託契約書等に基づき、また米国金融機関等からの借入れに際し、被融資取引契約上の義務に基づき、『米国会計基準』に準拠した連結財務諸表を作成・開示してきたことを事由として、昭和53年1月17日に「連結財務諸表規則取扱要領第86に基づく承認申請書」を大蔵大臣へ提出し、同年3月29日付蔵証第462号により承認を受けており、その後も継続して『米国会計基準』による連結財務諸表を作成・開示しております。なお当社は、米国証券取引委員会に登録しておりません。

3 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

		前連結会計年度末 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間末 (平成25年12月31日)
区分	注記 番号	金額 (百万円)	金額 (百万円)
(資産の部)			
I 流動資産			
現金及び現金同等物	3	569,716	536,982
定期預金	5	7,120	7,308
有価証券	3	3,655	4,419
営業債権	4,5		
受取手形		160,806	195,834
売掛金		1,543,851	1,751,798
貸倒引当金		△8,242	△9,086
営業債権合計		1,696,415	1,938,546
関連会社に対する債権	4	194,449	184,452
たな卸資産	5	657,853	850,723
前渡金		70,871	99,112
前払費用		39,355	54,030
繰延税金資産		47,810	42,165
その他の流動資産	4,11	268,939	309,121
流動資産合計		3,556,183	4,026,858
II 投資及び長期債権			
関連会社に対する投資及び長期債権	4,5	1,645,568	1,803,451
その他の投資	3,5	530,293	611,733
その他の長期債権	4,5	139,790	155,836
貸倒引当金	4	△35,929	△33,928
投資及び長期債権合計		2,279,722	2,537,092
III 有形固定資産	5		
有形固定資産 (取得原価)			
土地		140,345	140,930
建物		457,299	483,806
機械及び装置		557,423	600,892
器具及び備品		84,287	92,649
鉱業権		93,684	93,004
建設仮勘定		57,591	54,492
有形固定資産 (取得原価) 合計		1,390,629	1,465,773
減価償却累計額		△586,374	△618,548
有形固定資産合計		804,255	847,225
IV のれん及びその他の無形資産 (償却累計額控除後)		324,213	495,695
V 前払年金費用		223	687
VI 長期繰延税金資産		51,447	37,540
VII その他の資産	11	101,403	132,075
資産合計	8	7,117,446	8,077,172

「四半期連結財務諸表注記」参照

		前連結会計年度末 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間末 (平成25年12月31日)
区分	注記 番号	金額 (百万円)	金額 (百万円)
(負債の部)			
I 流動負債			
短期借入金	5	435,880	541,891
1年以内に期限の到来する長期債務	5	46,664	61,986
営業債務	5		
支払手形		180,385	226,927
買掛金		1,288,770	1,476,999
営業債務合計		1,469,155	1,703,926
関連会社に対する債務		42,606	43,695
未払費用		166,714	179,659
未払法人税等		37,758	25,796
前受金		66,689	107,498
繰延税金負債		574	404
その他の流動負債	11	209,901	236,627
流動負債合計		2,475,941	2,901,482
II 長期債務	5, 11	2,447,868	2,615,177
III 退職給与及び年金債務		36,804	45,816
IV 長期繰延税金負債		44,214	73,074
V 契約残高及び偶発債務	14		
負債合計		5,004,827	5,635,549
(資本の部)			
I 株主資本			
資本金 (普通株式)	9	202,241	202,241
資本剰余金	9	113,408	113,459
利益剰余金	9		
利益準備金		29,533	36,181
その他の利益剰余金		1,471,895	1,640,721
利益剰余金合計		1,501,428	1,676,902
累積その他の包括損益	9, 10		
為替換算調整額		△57,605	54,390
年金債務調整額		△87,373	△85,022
未実現有価証券損益	3	99,018	119,213
未実現デリバティブ評価損益	11	△2,979	△5,143
累積その他の包括損益合計		△48,939	83,438
自己株式	9	△2,703	△2,809
株主資本合計		1,765,435	2,073,231
II 非支配持分	9	347,184	368,392
資本合計		2,112,619	2,441,623
負債及び資本合計		7,117,446	8,077,172

「四半期連結財務諸表注記」参照

(2) 【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

		前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
区分	注記 番号	金額 (百万円)	金額 (百万円)
I 収益			
商品販売等に係る収益		3,001,285	3,793,227
売買取引に係る差損益及び手数料	10, 11	245,975	244,184
収益合計		3,247,260	4,037,411
II 商品販売等に係る原価		△2,579,514	△3,287,083
売上総利益	8	667,746	750,328
III その他の収益 (△費用)			
販売費及び一般管理費	2, 6, 10	△503,777	△551,776
貸倒引当金繰入額	4	238	△3,476
受取利息		6,573	8,415
支払利息	10, 11	△17,312	△18,550
受取配当金		11,529	13,525
投資及び有価証券に係る損益	2, 3, 10	20,344	41,671
固定資産に係る損益		△4,186	517
その他の損益	10, 11	9,455	9,632
その他の収益 (△費用) 合計		△477,136	△500,042
法人税等及び持分法による投資 損益前利益		190,610	250,286
IV 法人税等 (△費用)			
当期税金		△62,149	△58,851
繰延税金	2	10,945	△22,814
法人税等 (△費用) 合計	10	△51,204	△81,665
持分法による投資損益前利益		139,406	168,621
V 持分法による投資損益	8	84,774	82,360
四半期純利益		224,180	250,981
VI 非支配持分に帰属する四半期純利益	10	△16,046	△10,655
当社株主に帰属する四半期純利益	8	208,134	240,326

		前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
区分	注記 番号	金額 (円)	金額 (円)
基本的1株当たり 当社株主に帰属する四半期純利益	7	131.69	152.06
潜在株式調整後1株当たり 当社株主に帰属する四半期純利益	7	131.61	151.35

「四半期連結財務諸表注記」参照

【第3四半期連結会計期間】

		前第3四半期連結会計期間 (自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日)
区分	注記 番号	金額 (百万円)	金額 (百万円)
I 収益			
商品販売等に係る収益		994,531	1,364,328
売買取引に係る差損益及び手数料	10, 11	80,628	80,453
収益合計		1,075,159	1,444,781
II 商品販売等に係る原価		△856,884	△1,179,117
売上総利益	8	218,275	265,664
III その他の収益 (△費用)			
販売費及び一般管理費	2, 6, 10	△165,332	△189,125
貸倒引当金繰入額	4	△818	△839
受取利息		2,192	2,892
支払利息	10, 11	△5,616	△6,352
受取配当金		3,977	4,821
投資及び有価証券に係る損益	3, 10	8,324	5,597
固定資産に係る損益		△1,548	△239
その他の損益	10, 11	4,664	3,269
その他の収益 (△費用) 合計		△154,157	△179,976
法人税等及び持分法による投資 損益前利益		64,118	85,688
IV 法人税等 (△費用)			
当期税金		△23,126	△16,066
繰延税金		8,411	△8,182
法人税等 (△費用) 合計	10	△14,715	△24,248
持分法による投資損益前利益		49,403	61,440
V 持分法による投資損益	8	22,286	15,476
四半期純利益		71,689	76,916
VI 非支配持分に帰属する四半期純利益	10	△5,802	△1,707
当社株主に帰属する四半期純利益	8	65,887	75,209

		前第3四半期連結会計期間 (自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日)
区分	注記 番号	金額 (円)	金額 (円)
基本的1株当たり 当社株主に帰属する四半期純利益	7	41.69	47.59
潜在株式調整後1株当たり 当社株主に帰属する四半期純利益	7	41.65	47.33

「四半期連結財務諸表注記」参照

(3) 【四半期連結包括損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

		前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
区分	注記 番号	金額(百万円)	金額(百万円)
四半期純利益		224,180	250,981
その他の包括損益(税効果控除後)	9,10		
為替換算調整額		26,399	117,772
年金債務調整額		2,887	2,523
未実現有価証券損益	3	2,641	20,999
未実現デリバティブ評価損益	11	△2,363	△2,242
その他の包括損益(税効果控除後)合計		29,564	139,052
包括損益		253,744	390,033
非支配持分に帰属する包括損益		△10,442	△17,168
当社株主に帰属する包括損益		243,302	372,865

「四半期連結財務諸表注記」参照

【第3四半期連結会計期間】

		前第3四半期連結会計期間 (自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成25年10月1日 至平成25年12月31日)
区分	注記 番号	金額 (百万円)	金額 (百万円)
四半期純利益		71,689	76,916
その他の包括損益 (税効果控除後)	9, 10		
為替換算調整額		87,954	71,227
年金債務調整額		571	831
未実現有価証券損益	3	24,478	11,283
未実現デリバティブ評価損益	11	△2,578	△859
その他の包括損益 (税効果控除後) 合計		110,425	82,482
包括損益		182,114	159,398
非支配持分に帰属する包括損益		△5,915	△2,076
当社株主に帰属する包括損益		176,199	157,322

「四半期連結財務諸表注記」参照

(4) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

【第3四半期連結累計期間】

		前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
区分	注記 番号	金額 (百万円)	金額 (百万円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
四半期純利益		224,180	250,981
営業活動によるキャッシュ・フローに 調整するための修正			
減価償却費等		62,323	74,755
貸倒引当金繰入額		△238	3,476
投資及び有価証券に係る損益	2	△20,344	△41,671
固定資産に係る損益		4,186	△517
持分法による投資損益 (受取配当金差引後)		△51,062	△36,686
繰延税金		△10,945	22,814
資産・負債の変動			
営業債権の増加		△9,551	△144,916
関連会社に対する債権の増加		△2,317	△4,899
たな卸資産の増加		△99,927	△85,443
その他の流動資産の増加		△23,158	△14,321
営業債務の増加		85,557	155,092
関連会社に対する債務の増加		2,356	5,239
その他の流動負債の増減		△6,696	6,357
その他		△40,511	△23,296
営業活動によるキャッシュ・フロー		113,853	166,965
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産等の取得による支出		△88,521	△90,032
有形固定資産等の売却による収入		5,062	21,465
関連会社に対する投資及び長期債権の増加		△98,780	△50,752
関連会社に対する投資及び長期債権の減少		32,668	48,139
売却可能有価証券の取得による支出		△5,085	△3,847
売却可能有価証券の売却による収入		28,718	42,471
売却可能有価証券の償還による収入		5,437	2,201
満期保有有価証券の取得による支出		△10	—
満期保有有価証券の償還による収入		128	—
その他の投資の取得による支出		△35,936	△101,786
その他の投資の売却による収入		19,032	18,618
子会社の取得 (取得現金控除後)		△19,804	△131,374
子会社の売却 (除外現金控除後)		△6,812	2,565
長期債権の発生額		△29,549	△49,778
長期債権の回収額		24,352	28,612
定期預金の増加—純額		△18,053	△19
投資活動によるキャッシュ・フロー		△187,153	△263,517

「四半期連結財務諸表注記」参照

		前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
区分	注記 番号	金額(百万円)	金額(百万円)
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
長期債務による調達額		363,589	348,571
長期債務の返済額		△286,109	△267,722
短期借入金の増加—純額		91,881	53,544
非支配持分からの資本取引による入金額		2,056	1,830
非支配持分への資本取引による支払額		△14,142	△3,574
当社株主への配当金の支払額		△75,134	△64,852
非支配持分への配当金の支払額		△5,641	△10,726
自己株式の増加—純額		△6	△28
財務活動によるキャッシュ・フロー		76,494	57,043
IV 為替相場の変動による 現金及び現金同等物への影響額		7,781	6,775
V 現金及び現金同等物の増減額		10,975	△32,734
VI 現金及び現金同等物の期首残高		513,489	569,716
VII 現金及び現金同等物の四半期末残高		524,464	536,982
キャッシュ・フロー情報の補足的開示			
利息支払額		17,854	18,767
法人税等支払額		67,565	77,490
現金収支を伴わない投資及び財務活動			
保有有価証券による退職給付信託設定額		5,133	—
株式交換損益の認識	3		
取得した株式の公正価額		208	—
交換に供した株式の取得価額		98	—
子会社の取得	2		
取得資産		49,183	283,562
引受負債		19,183	122,137
子会社の純資産(取得現金控除前)		30,000	161,425
現金支出を伴わない取得原価等		9,000	4,501
前連結会計年度に支払済みの取得原価		—	18,626
取得資産に含まれる現金		1,196	6,924
子会社の取得(取得現金控除後)		19,804	131,374

「四半期連結財務諸表注記」参照

【第3四半期連結会計期間】

		前第3四半期連結会計期間 (自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成25年10月1日 至平成25年12月31日)
区分	注記 番号	金額 (百万円)	金額 (百万円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
四半期純利益		71,689	76,916
営業活動によるキャッシュ・フローに 調整するための修正			
減価償却費等		21,443	26,144
貸倒引当金繰入額		818	839
投資及び有価証券に係る損益		△8,324	△5,597
固定資産に係る損益		1,548	239
持分法による投資損益 (受取配当金差引後)		△12,392	△4,914
繰延税金		△8,411	8,182
資産・負債の変動			
営業債権の増加		△108,846	△198,989
関連会社に対する債権の増加		△3,504	△39,063
たな卸資産の増加		△58,854	△26,605
その他の流動資産の増加		△23,851	△22,348
営業債務の増加		129,166	200,724
関連会社に対する債務の増加		4,056	8,181
その他の流動負債の増減		△516	18,410
その他		3,051	△2,258
営業活動によるキャッシュ・フロー		7,073	39,861
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産等の取得による支出		△27,093	△34,542
有形固定資産等の売却による収入		2,605	12,978
関連会社に対する投資及び長期債権の増加		△13,984	△19,805
関連会社に対する投資及び長期債権の減少		7,185	10,797
売却可能有価証券の取得による支出		△1,347	△1,475
売却可能有価証券の売却による収入		17,597	11,199
売却可能有価証券の償還による収入		1,792	470
満期保有有価証券の取得による支出		△5	—
満期保有有価証券の償還による収入		128	—
その他の投資の取得による支出		△7,395	△10,801
その他の投資の売却による収入		1,923	6,816
子会社の売却 (除外現金控除後)		△8,643	761
長期債権の発生額		△9,434	△11,289
長期債権の回収額		8,476	9,401
定期預金の増減—純額		28,685	△179
投資活動によるキャッシュ・フロー		490	△25,669

「四半期連結財務諸表注記」参照

		前第3四半期連結会計期間 (自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成25年10月1日 至平成25年12月31日)
区分	注記 番号	金額(百万円)	金額(百万円)
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
長期債務による調達額		158,328	118,649
長期債務の返済額		△89,401	△117,050
短期借入金の増減—純額		42,270	△29,760
非支配持分からの資本取引による入金額		1,341	772
非支配持分への資本取引による支払額		△551	△3,102
当社株主への配当金の支払額		△31,635	△33,217
非支配持分への配当金の支払額		△2,221	△2,855
自己株式の増加—純額		△3	△12
財務活動によるキャッシュ・フロー		78,128	△66,575
IV 為替相場の変動による 現金及び現金同等物への影響額		12,241	10,579
V 現金及び現金同等物の増減額		97,932	△41,804
VI 現金及び現金同等物の四半期首残高		426,532	578,786
VII 現金及び現金同等物の四半期末残高		524,464	536,982
キャッシュ・フロー情報の補足的開示			
利息支払額		6,014	5,945
法人税等支払額		15,227	20,906
現金収支を伴わない投資及び財務活動			
株式交換損益の認識	3		
取得した株式の公正価額		42	—
交換に供した株式の取得価額		20	—

「四半期連結財務諸表注記」参照

四半期連結財務諸表が準拠している用語、様式及び作成方法

当社は、当四半期連結財務諸表を米国会計基準（注）に基づいて作成しております。

当四半期連結財務諸表が準拠している用語、様式及び作成方法と、本邦の四半期連結財務諸表規則及び四半期財務諸表に関する会計基準（企業会計基準第12号）に準拠して作成する場合との主要な相違の内容は次のとおりであり、更に金額的に重要性のある項目については影響額を併せて開示しております。各項目において表示されている影響額は、特に記載のない限り、本邦の四半期連結財務諸表規則及び四半期財務諸表に関する会計基準（企業会計基準第12号）に準拠した場合の「法人税等及び持分法による投資損益前利益」（以下、「税引前利益」という。）に対する影響額であり、「当社株主に帰属する四半期純利益」に対する影響額ではありません。なお、米国会計基準に準拠して作成した四半期連結財務諸表の税引前利益が、本邦の四半期連結財務諸表規則及び四半期財務諸表に関する会計基準（企業会計基準第12号）に準拠して作成した場合の税引前利益を上回る場合には、当該影響額の上に「（利益）」と記載し、下回る場合には「（損失）」と記載しております。

（注）米国会計基準は、“FASB Accounting Standards Codification™”（以下、「ASC」という。）により体系化され、新たに発行または改訂される基準については、“Accounting Standards Updates”（以下、「ASU」という。）として公表されております。参照基準の記載にあたっては、ASC体系において規定されるトピック番号を記載しております。

(1) 構成

当四半期連結財務諸表は、当四半期連結会計期間末における四半期連結貸借対照表、当四半期連結累計期間及び当四半期連結会計期間における四半期連結損益計算書、四半期連結包括損益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記から構成されております。

(2) 四半期連結損益計算書の様式

当社の四半期連結損益計算書は、米国における一般的な連結損益計算書様式の一つである一段階形式（シングル・ステップ）により表示しております。

売上高及び営業利益は、日本の会計慣行に基づいた指標であるため、当四半期連結損益計算書には記載していません。当該売上高は、前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間において、それぞれ9,273,860百万円及び10,740,018百万円であり、前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間において、それぞれ3,158,356百万円及び3,780,602百万円です。当該営業利益は、四半期連結損益計算書における「売上総利益」、「販売費及び一般管理費」、及び「貸倒引当金繰入額」を合計したものであり、前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間において、それぞれ164,207百万円及び195,076百万円であり、前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間において、それぞれ52,125百万円及び75,700百万円です。

(3) 区分表示

営業債権債務の区分表示

通常取引に基づいて発生した営業上の債権債務（但し、破産更生債権等で1年以内に回収されないことが明らかなものを除く）については、本邦会計基準では流動項目として表示しますが、当四半期連結貸借対照表では、その決済期日が貸借対照表日の翌日から起算し1年を超えるものを非流動項目として区分表示しております。

鉱業権の表示

鉱業権は有形固定資産として表示しております。

非支配持分の表示

四半期連結貸借対照表において、本邦会計基準における「少数株主持分」は「非支配持分」にて表示しております。また、本邦の四半期連結財務諸表規則では、四半期連結貸借対照表を資産の部、負債の部、純資産の部に区分し、「少数株主持分」を純資産の部の中に入れて表示することとされていますが、当四半期連結貸借対照表では、資産の部、負債の部、資本の部に区分し、「非支配持分」を資本の部に入れて表示しております。

持分法による投資損益の表示

四半期連結損益計算書において、「持分法による投資損益」は、「法人税等」の後に独立項目として表示しております。

四半期純利益の表示

四半期連結損益計算書において、「四半期純利益」は、連結グループとしての損益を当社株主に帰属する部分と非支配持分に帰属する部分とに区分する前の損益として表示しております。一方、本邦の四半期連結財務諸表規則における「四半期純利益」は「少数株主利益（又は少数株主損失）」控除後、すなわち連結グループとしての損益のうち、当社株主に帰属する部分を表示するものとされています。（本邦の四半期連結財務諸表規則における「四半期純利益」は、当四半期連結損益計算書では、「当社株主に帰属する四半期純利益」として表示しております。）

(4) 会計処理基準

有価証券及び投資の評価

有価証券及び投資の評価には、ASCトピック320「投資（債券と持分証券）」を適用し、一時的ではない減損を認識しております。当該会計処理による税引前利益への影響額は、前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間において、それぞれ3,750百万円（損失）及び5,811百万円（利益）であり、前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間において、それぞれ9,471百万円（損失）及び1,837百万円（利益）です。

金銭を伴わない株式の交換

株式の移転により取得した新株に関する金銭を伴わない交換損益は、ASCトピック325「投資（その他）」に基づき、その交換があった期に認識しております。当該会計処理による税引前利益への影響額は、前第3四半期連結累計期間において110百万円（利益）でありましたが、当第3四半期連結累計期間においては発生しておらず、前第3四半期連結会計期間において22百万円（利益）でありましたが、当第3四半期連結会計期間においては発生しておりません。

圧縮記帳

有形固定資産の圧縮記帳については、圧縮記帳がなかったものとして処理しております。

退職給与及び年金

退職給与及び年金費用については、ASCトピック715「報酬（退職給付）」に基づき処理しております。当該会計処理による税引前利益への影響額は、前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間において、それぞれ7,906百万円（利益）及び6,834百万円（利益）であり、前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間において、それぞれ2,636百万円（利益）及び2,278百万円（利益）です。

また、ASCトピック715「報酬（退職給付）」に基づき、年金制度の積立状況（すなわち、年金資産の公正価額と予測給付債務の差額）を資産または負債として認識し、数理差異残高及び過去勤務債務残高については、税効果控除後の金額で「累積その他の包括損益」としてそれぞれ四半期連結貸借対照表で認識しております。

新株発行費用

新株発行に係る費用は、ASCトピック505「資本」に基づき、「資本剰余金」からの控除としております。

延払条件付販売利益

延払条件付販売に係る利益については、ASCトピック605「収益の認識」に基づき、すべて販売時に認識しております。

子会社の取得時における非支配持分の認識・測定

ASCトピック805「企業結合」に基づき、新たに子会社を取得した場合、取得時における非支配持分は、当該時点における非支配持分の公正価額にて認識・測定しております。

子会社に対する持分比率の変動

ASCトピック810「連結」に基づき、変動後も支配を継続する子会社に対する持分比率の変動等は、損益取引として取扱わず、資本取引として認識しております。当該会計処理により、前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間の四半期連結貸借対照表の「資本剰余金」は、それぞれ94百万円（増加）及び288百万円（減少）となり、前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間の四半期連結貸借対照表の「資本剰余金」は、それぞれ28百万円（増加）及び420百万円（減少）として処理しております。

子会社に対する支配喪失時における残存持分の再測定

ASCトピック810「連結」に基づき、子会社に対する支配を喪失した場合、残存持分を支配喪失時における公正価値にて再測定し、再評価差額をその期の損益として認識しております。当該会計処理による税引前利益への影響額は、前第3四半期連結累計期間において3,712百万円（利益）でありましたが、当第3四半期連結累計期間においては軽微であり、前第3四半期連結会計期間においては3,157百万円（利益）でありましたが、当第3四半期連結会計期間においては軽微です。

のれんの償却

企業結合から生じるのれんについては、ASCトピック350「無形資産(のれん及びその他)」に基づき、規則的な償却を行わず、少なくとも年に一度、更に減損の可能性を示す事象または状況の変化が生じた場合はその都度、報告単位を基礎とした減損テストを行っております。また、持分法適用関連会社に対する投資差額に含まれるのれん相当額についても同様にASCトピック323「投資-持分法及びジョイント・ベンチャー」に基づき、規則的な償却を行わず、のれん相当額を含む帳簿価額を基礎とした減損テストを行っております。本邦において、のれんの償却を行った場合との比較による「当社株主に帰属する四半期純利益」への影響額は、前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間において、それぞれ12,651百万円（利益）及び16,778百万円（利益）であり、前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間において、それぞれ4,221百万円（利益）及び5,826百万円（利益）です。

デリバティブ

ASCトピック815「デリバティブ及びヘッジ」に基づき、すべてのデリバティブは公正価値で当第3四半期連結会計期間末の四半期連結貸借対照表に計上され、公正価値の変動については、ヘッジの目的の有無及びヘッジ活動の種類に応じて、当第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結会計期間の損益、あるいは税効果控除後の金額で「累積その他の包括損益」に計上しております。

四半期連結財務諸表注記

1 重要な会計方針の要約

(1) 四半期連結財務諸表の基本事項

当社は、当四半期連結財務諸表を米国会計基準に基づいて作成しております。当社及び子会社は、それぞれ所在国の会計基準に基づき、会計帳簿を保持し、四半期財務諸表を作成していることから、米国会計基準に準拠するべく、一定の修正を加えております。主な修正項目は、有価証券及び投資の評価、金銭を伴わない株式の交換、圧縮記帳、退職給与及び年金、新株発行費用、延払条件付販売利益、子会社の取得時における非支配持分の認識・測定、子会社の持分比率の変動、子会社に対する支配喪失時における残存持分の再測定、のれんの償却、デリバティブ等です。

(2) 重要な会計方針の要約

1) 連結の基本方針

当四半期連結財務諸表は、ASCトピック810「連結」に基づき、当社及び当社が直接または間接に議決権の過半数を所有する国内及び海外の子会社、並びに当社及び子会社が主たる受益者となる変動持分事業体の各勘定を連結したものです。連結対象となるべき変動持分事業体の選定にあたっては、当該事業体への関与の状況をより実態に即して総合的に判断し、変動持分事業体の選定及び当該事業体が連結対象となるかどうかについて、四半期ごとに継続して検討しております。

子会社の決算日は、いずれも12月31日またはそれ以前の3か月以内の日であり、各勘定の連結にあたっては、それぞれの会社の会計期間に基づいて算入しております。

2) 外貨換算

外貨建財務諸表の項目は、ASCトピック830「外貨関連事項」に基づき換算しております。海外子会社及び海外関連会社の資産及び負債は、それぞれの決算日の為替レートにより、収益及び費用は、期中平均レートにより円貨に換算しております。換算により生じる為替換算調整額については、税効果控除後の金額を四半期連結貸借対照表の「累積その他の包括損益」に含めております。また、外貨建債権債務は、決算日の為替レートで機能通貨に換算し、その結果生じる換算損益は四半期連結損益計算書の「その他の損益」に計上しております。

3) 現金同等物

現金同等物については、ASCトピック230「キャッシュ・フロー計算書」に基づき、流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ価値の変動について僅少なりスクしか負わない短期投資（当初決済期日が3か月以内）及び短期の定期預金（当初満期日が3か月以内）等を含んでおります。

4) たな卸資産

たな卸資産については、ASCトピック330「棚卸資産」に基づき、原則として個別法に基づく原価と時価のいずれか低い価額により評価しております。

5) 有価証券及びその他の投資

当社及び子会社は、「有価証券」及び「その他の投資」を、ASCトピック320「投資(債券と持分証券)」に基づき、満期保有有価証券については償却原価法で処理し、売買目的有価証券については公正価額で評価したうえで未実現評価損益を損益に計上し、売却可能有価証券については公正価額で評価したうえで未実現評価損益の税効果控除後の純額を資本の部の「累積その他の包括損益」に計上しております。

なお、売却した特定の有価証券の原価は、移動平均法で計算しております。

当社及び子会社は、満期保有有価証券及び売却可能有価証券について、定期的に減損の有無を検討しております。公正価額が帳簿価額を下回り、公正価額の下落が一時的でないとは判断された場合には、公正価額に基づく評価損をその期の損益に計上しております。公正価額の下落が一時的であるか否かの判断は、下落率及び下落期間等を考慮して決定しております。

上記に区分されない「有価証券」及び「その他の投資」については、ASCトピック325「投資－その他」に基づき、原価またはそれより低い価額（評価減後の額）で計上しております。

6) 関連会社に対する投資の会計処理

関連会社（通常、当社及び子会社の議決権所有割合が20%以上50%以下の会社）に対する投資については、ASCトピック323「投資—持分法及びジョイント・ベンチャー」に基づき、取得原価に取得時以降の持分法による投資損益を加減算して表示しております。重要な内部未実現利益は消去しております。また、関連会社から受け取った配当金については、関連会社に対する投資より減額しております。帳簿価額まで回復する見込みがない、あるいは投資先において帳簿価額を維持しうるだけの収益力を正当化できない等、公正価額の下落が一時的でないかと判断された場合には、減損を認識しております。

7) 減損を認識した債権及び貸倒引当金

当社及び子会社は、ASCトピック310「債権」に基づき、減損を認識した貸付金等の債権に関し、将来見込まれるキャッシュ・フローを当該債権の実効利率で現在価値に割引いた金額、客観的な市場価格、または当該債権が担保に依存している場合には、その公正担保価値で債権を評価し、その評価額が帳簿価額を下回った際に貸倒引当金を設定しております。また、減損を認識した債権に係る利息収益は、原則として現金主義により認識しております。

8) 長期性資産の評価

当社及び子会社は、ASCトピック360「有形固定資産」に基づき、保有・使用される、または売却以外によって処分される長期性資産について、帳簿価額の一部が回収不能となった可能性を示す事象や状況の変化が生じた場合にその減損の有無を判定しております。当該長期性資産の割引前将来見積キャッシュ・フローが帳簿価額を下回る場合には、公正価額に基づき評価損を計上しております。売却により処分予定の長期性資産については、帳簿価額と公正価額（処分費用控除後）のいずれか低い価額により評価しております。

9) 減価償却

有形固定資産（賃貸固定資産を含む）の減価償却については、鉱業権は主として生産高比例法により、それ以外の有形固定資産は当該資産の見積耐用年数（建物は6年から65年、機械及び装置は2年から33年、器具及び備品は2年から20年）に基づき、主として定額法または定率法により算定しております。

10) 企業結合

企業結合については、ASCトピック805「企業結合」に基づき、取得法により会計処理を行っております。すなわち、取得時において識別可能な資産及び負債、並びに非支配持分を公正価額で認識し、既保有持分を取得時における公正価額で再測定（当該評価差額は四半期連結損益計算書の「投資及び有価証券に係る損益」として認識）したうえで、取得価額、再測定後の既保有持分価額及び非支配持分の公正価額の合計から識別可能な資産及び負債の公正価額の合計を差引いたものをのれんとして認識しております。また、バーゲンパーチェス取引となる場合、すなわち識別可能な資産及び負債の公正価額の合計が取得価額、再測定後の既保有持分価額及び非支配持分の公正価額の合計を上回る場合は、当該差額を四半期連結損益計算書の「子会社取得におけるバーゲンパーチェス取引に係る利益」として認識しております。

11) のれん及びその他の無形資産

のれんについては、ASCトピック350「無形資産(のれん及びその他)」に基づき、償却を行わず、少なくとも年に一度、更に減損の可能性を示す事象または状況の変化が生じた場合はその都度、報告単位を基礎とした減損のテストを実施しております。また、耐用年数を見積ることが可能なその他の無形資産については、それぞれの見積耐用年数にわたって償却し、かつASCトピック360「有形固定資産」に基づき、減損のテストを実施しております。一方、耐用年数を見積ることができないその他の無形資産については、のれん同様に償却を行わず、減損のテストを実施しております。

12) 非支配持分

非支配持分については、ASCトピック810「連結」に基づき、子会社における資本のうち、親会社に直接的または間接的に帰属しない部分について資本の一部として認識し、「非支配持分」として表示しております。

13) 子会社に対する持分比率の変動

支配を継続した中での持分買増及び売却取引における子会社に対する持分比率の変動については、ASCトピック810「連結」に基づき、資本取引として処理しております。

14) 子会社に対する支配の喪失

子会社に対する支配の喪失を伴う持分の売却等については、ASCトピック810「連結」に基づき、売却持分に係る売却損益を認識するとともに、残存持分について支配喪失時の公正価額で再測定し、当該評価差額をその期の損益として認識しております。

15) 石油・ガスの探鉱及び開発

石油・ガスの探鉱及び開発費用は、ASCトピック932「採掘活動(石油・ガス)」に基づき、原則として成功成果法に基づき会計処理しております。利権鉱区取得費用、試掘井及び開発井の掘削・建設費用、及び関連生産設備は資産に計上し、生産高比例法により償却しております。試掘井に係る費用は、事業性がないことが判明した時点で費用化し、地質調査費用等のその他の探鉱費用は、発生時点で費用化しております。

16) 鉱物採掘活動

鉱物の探鉱費用は、鉱物の採掘活動の商業採算性が確認されるまでは発生時に費用認識しております。商業採算性が確定された後に発生した採掘活動に係る費用は、開発費用として資産計上し、確認鉱量及び推定鉱量に基づき生産高比例法により償却しております。また、ASCトピック930「採掘活動(鉱山業)」に基づき、生産期に発生した剥土費用は、発生した期間における変動生産費として、当該鉱業資産のたな卸資産原価として処理しております。

17) 資産除去債務

当社及び子会社は、ASCトピック410「資産除去及び環境債務」に基づき、有形の長期性資産の除去に関連する法的債務につき、その公正価額の合理的な見積りが可能である場合には、当該債務の発生時に公正価額で負債として認識するとともに、同額を資産化しております。また、認識した負債は毎期現在価値に調整するとともに、資産化された金額をその耐用年数にわたって償却しております。

18) リース

当社及び子会社は、直接金融リース及びオペレーティング・リースによる固定資産の賃貸事業を行っております。直接金融リースに係る収益は、リース期間にわたって純投資額に対して一定の利率にて未稼得収益を取崩すことにより認識しております。オペレーティング・リースに係る収益は、リース期間にわたって均等に認識しております。

また、当社及び子会社は、キャピタル・リース及びオペレーティング・リースにより固定資産を賃借しております。キャピタル・リースに係る費用は、リース期間にわたってキャピタル・リース債務に対して一定の利率にて支払利息を認識しております。リース資産の減価償却費は、リース期間にわたって定額法により費用として認識しております。オペレーティング・リースに係る費用は、リース期間にわたって均等に認識しております。

19) 退職給与及び年金

当社及び子会社は、ASCトピック715「報酬(退職給付)」に基づき、従業員の退職給与及び退職一時金について、保険数理により計算された金額を計上しております。また、ASCトピック715「報酬(退職給付)」に基づき、退職給付債務と年金資産の公正価額の差額である積立状況を資産または負債として、数理差異残高及び過去勤務債務残高については、税効果控除後の金額で、「累積その他の包括損益」として、それぞれ四半期連結貸借対照表で認識しております。

20) 保証債務

当社及び子会社は、ASCトピック460「保証」に基づき、平成15年1月1日以降に差入または更新を行った保証について、その差入または更新の時点で、当該履行義務の公正価額を負債として認識しております。

21) 収益の認識基準

当社及び子会社は、商取引において取引の当事者（PRINCIPAL）として、または代理人（AGENT）として関与する様々な商取引に関する収益を得ております。当社及び子会社は、商品販売、資源開発、不動産の開発販売等に係る収益があります。また、商取引において顧客の商品売買の支援を行う等の役務提供及びリース、ソフトウェア等に係る収益があります。当社及び子会社は、収益が実現または実現可能となり、かつ収益が稼得された時点で収益を認識しております。すなわち、商品等の引渡し及び役務の提供が完了し、取引価格が確定または確定しうる状況にあり、かつ対価の回収が合理的に見込まれる取引に関し、当該取引に係る証拠に基づき、収益を認識しております。

商品販売を収益の源泉とする取引には、卸売、小売、製造・加工を通じた商品の販売、資源開発、不動産の開発販売等が含まれております。これらについては売先への商品の引渡し、倉庫証券の交付、検収書の受領等、契約上の受渡し条件が履行された時点をもって収益を認識しております。長期請負工事契約については、その契約内容によって、完成までに要する原価及び当該長期契約の進捗度を合理的に把握でき、かつ法的拘束力を持つ契約が存在し、当事者双方が契約上の義務を履行可能であると見込まれる場合には工事進行基準により、そうでない場合には工事完成基準により、収益を認識しております。

役務提供を収益の源泉とする取引は、金融、物流、情報通信、技術支援等、様々な分野で行われており、それらについては、契約上の役務の顧客への提供完了時点で収益を認識しております。その他の取引を収益の源泉とする取引にはソフトウェアの開発、保守サービス、航空機・不動産・産業機械等のリース事業に係る収益が含まれております。それらのうちソフトウェアの開発については検収基準で認識し、保守サービスについては保守契約期間にわたって認識しております。航空機・不動産・産業機械等のリース事業に係る収益は、当該リース期間にわたって均等に認識しております。

収益の総額（グロス）表示と純額（ネット）表示

当社及び子会社は、ASCトピック605「収益の認識」に基づき、製造業・加工業・サービス業等で第一義的な責任を負っている取引に係る収益、売上約定のない買持在庫リスクを負う取引額等について、四半期連結損益計算書上「商品販売等に係る収益」として収益を総額（グロス）にて表示しております。また、収益を純額（ネット）にて表示すべき取引額については、四半期連結損益計算書上「売買取引に係る差損益及び手数料」として表示しております。

売上高

売上高は、同業の日本の商社で主に用いられる米国会計基準に準拠しない日本の会計慣行に基づいた指標であり、取引の当事者としての商取引並びに代理人としての商取引の総額からなっております。当該売上高は、米国会計基準によるところの売上高あるいは収益と同義でもこれに替わるものでもありません。なお、売上高の金額は、オペレーティングセグメント情報に記載しております。

22) 広告宣伝費

広告宣伝費は、ASCトピック720「その他の費用」に基づき、発生時に費用認識しております。

23) 研究開発費

研究開発費は、ASCトピック730「研究開発費」に基づき、発生時に費用認識しております。

24) 撤退または処分活動に関して発生するコスト

当社及び子会社は、ASCトピック420「撤退または処分コスト債務」に基づき、撤退計画が決定した時点ではなく、撤退または処分活動に関連するコストの負債が発生した時点で、当該関連するコストの負債を公正価額により認識しております。

25) 法人税等

当社及び子会社は、ASCトピック740「法人所得税」に基づき、資産負債法で税効果を計上しております。財務諸表上での資産及び負債の計上額と、それら税務上の計上額との一時差異及び繰越欠損金に関連する将来の見積税効果について、繰延税金資産及び負債を認識しております。この繰延税金資産及び負債は、それらの一時差異が解消されると見込まれる期の課税所得に対して適用される税率を使用して測定しております。また、繰延税金資産及び負債における税率変更の効果は、その税率変更に関する法律制定日を含む期間の損益として認識しております。回収可能性が低いと見込まれる繰延税金資産については、評価性引当金を設定しております。

当社及び子会社は、ASCトピック740「法人所得税」に従い、税法上の技術的な解釈に基づき、タックスポジションが、税務当局による調査において50%超の可能性をもって認められる場合に、その財務諸表への影響を認識しております。タックスポジションに関連するベネフィットは、税務当局との解決により、50%超の可能性で実現が期待される最大金額で測定されます。未認識タックスベネフィットに関連する利息及び課徴金については、四半期連結損益計算書の「法人税等」に含めております。

26) 1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益

基本的1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益は、各期の加重平均発行済普通株式数（自己株式を除く）で除して計算しております。潜在株式調整後1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益は、潜在株式に該当する証券の希薄化効果を勘案して算出しております。

27) 包括損益

当社及び子会社は、ASCトピック220「包括利益」に基づき、包括損益及びその構成項目（収益、費用、利益及び損失）を、基本財務諸表の一部として開示しております。この包括損益には、「四半期純利益」の他に、「為替換算調整額」、「年金債務調整額」、「未実現有価証券損益」、「未実現デリバティブ評価損益」が含まれております。また、「非支配持分に帰属する包括損益」と「当社株主に帰属する包括損益」を個別に表示しております。

28) デリバティブ及びヘッジ活動

当社及び子会社は、ASCトピック815「デリバティブとヘッジ」に基づき、為替予約契約、金利スワップ契約や商品先物契約のようなすべてのデリバティブについて、その保有目的や保有意思にかかわらず公正価額で資産または負債として四半期連結貸借対照表に計上しております。デリバティブの公正価額の変動額は、そのデリバティブの使用目的及び結果としてのヘッジ効果の有無に従って処理しております。

ヘッジ目的で保有するデリバティブは、次のとおり分類し、公正価額で四半期連結貸借対照表に計上しております。

- ・「公正価額ヘッジ」は、既に認識された資産もしくは負債、または未認識の確定約定の公正価額の変動に対するヘッジであり、ヘッジの効果が高度に有効である限り、公正価額ヘッジとして指定され、かつ適格なデリバティブの公正価額の変動はヘッジ対象の公正価額の変動とともに損益に計上しております。
- ・「キャッシュ・フローヘッジ」は、予定取引または既に認識された資産もしくは負債に関連して発生する将来キャッシュ・フローの変動に対するヘッジであり、ヘッジの効果が高度に有効である限り、キャッシュ・フローヘッジとして指定され、かつ適格なデリバティブの公正価額の変動は「累積その他の包括損益」に計上しております。

この会計処理は、ヘッジ対象に指定された未認識の予定取引または既に認識された資産もしくは負債に関連して発生する将来キャッシュ・フローの変動が、損益に計上されるまで継続しております。

また、ヘッジの効果が有効でない部分は、損益に計上しております。

- ・「外貨ヘッジ」は、外貨の公正価額、または外貨の将来キャッシュ・フローに対するヘッジであり、ヘッジの効果が高度に有効である限り、既に認識された資産もしくは負債、未認識の確定約定または予定取引の外貨の公正価額ヘッジまたはキャッシュ・フローヘッジとして指定され、かつ適格なデリバティブの公正価額の変動は、損益と「累積その他の包括損益」のいずれかに計上しております。

損益と「累積その他の包括損益」のいずれかに計上されるかは、その外貨ヘッジが公正価額ヘッジまたはキャッシュ・フローヘッジのいずれに分類されるかによります。

当社及び子会社は、デリバティブを利用する目的、その戦略を含むリスク管理方針を文書化しており、それに加えて、そのデリバティブがヘッジ対象の公正価額または将来キャッシュ・フローの変動の影響を高度に相殺しているかどうかについて、ヘッジの開始時、また、その後も引続いて、四半期ごとに評価を行っております。

ヘッジ会計はヘッジの効果が有効でなくなれば中止され、デリバティブの公正価額の変動については直ちに損益に計上しております。

トレーディング目的で保有しているデリバティブの公正価額の変動は損益に計上しております。

29) 公正価額オプション

当社及び子会社は、金融商品の測定について、ASCトピック825「金融商品」に規定される公正価額オプションを選択しておりません。

30) 鉱業権

ASCトピック932「採掘活動(石油・ガス)」に基づき、鉱物資源会社及び石油・ガス産出会社が有するすべての鉱業権につき、有形固定資産として表示しております。

31) 見積りの使用

当社及び子会社は、当四半期連結財務諸表を作成するために種々の仮定と見積りを行っております。それらの仮定と見積りは資産、負債、収益及び費用の計上金額並びに偶発資産及び債務の開示情報に影響を及ぼします。実際の結果がこれらの見積りと異なることもあります。

32) 後発事象

当社及び子会社は、ASCトピック855「後発事象」に基づき、後発事象（四半期連結貸借対照表日の翌日以降、四半期連結財務諸表発行日または四半期連結財務諸表が発行できる状態になった日までに発生した事象）について、四半期連結財務諸表が発行できる状態となった日まで後発事象の評価を行うとともに、後発事象が評価された日及び四半期連結財務諸表が発行できる状態となった日をそれぞれ開示しております。

(3) 新会計基準

1) 金融資産及び金融負債の相殺に関する開示の拡充

平成23年12月にASU第2011-11号「貸借対照表(ASCトピック210)－資産と負債の相殺に関する開示」が公表されました。ASU第2011-11号「貸借対照表(ASCトピック210)」は、ASCトピック210「貸借対照表－相殺(サブトピック210-20-45)」またはASCトピック815「デリバティブとヘッジ・ネットティング(サブトピック815-10-45)」の規定に従って相殺された金融商品及びデリバティブ商品、並びに、マスター・ネットティング契約等の対象となる金融商品及びデリバティブ商品に関して、当該取引の相殺前の総額、相殺金額及びマスター・ネットティング契約等により将来相殺される可能性がある金額等を開示することを要求しております。また、平成25年1月に、ASU第2013-01号「貸借対照表(ASCトピック210)－資産と負債の相殺に関する開示の適用範囲の明確化」が公表されました。ASU第2013-01号「貸借対照表(ASCトピック210)」は、ASU第2011-11号の適用範囲を明確化するものです。

ASU第2011-11号及びASU第2013-01号「貸借対照表(ASCトピック210)」は、平成25年1月1日以降に開始する連結会計年度（すなわち、平成26年3月期連結会計年度）及び当該連結会計年度に含まれる四半期連結会計期間（すなわち、平成26年3月期連結会計年度の第1四半期）より適用されております。また、ASU第2011-11号及びASU第2013-01号「貸借対照表(ASCトピック210)」による開示の規定は遡及的に適用されております。

ASU第2011-11号及びASU第2013-01号「貸借対照表(ASCトピック210)」の開示の詳細は、四半期連結財務諸表注記「11 デリバティブ及びヘッジ活動」に記載しております。

2) 非償却性無形資産の減損テストに関する改訂

平成24年7月にASU第2012-02号「無形資産(のれん及びその他)(ASCトピック350)－非償却性無形資産の減損テスト」が公表されました。ASU第2012-02号「無形資産(のれん及びその他)(ASCトピック350)」は、非償却性無形資産の減損テストの第1ステップ（報告単位の公正価額と帳簿価額の比較）の前に、定性的評価を実施するオプションを認め、当該定性的評価で、報告単位の公正価額が帳簿価額を下回っている確率が50%を超えると判定される場合には、第2ステップの減損テストを実施することを求めています。

ASU第2012-02号「無形資産(のれん及びその他)(ASCトピック350)」は、平成24年9月16日以降に開始する連結会計年度（すなわち、平成26年3月期連結会計年度）の年次及び四半期において実施される非償却性無形資産の減損テストより適用されております。

当社及び子会社は、ASU第2012-02号「無形資産(のれん及びその他)(ASCトピック350)」に基づき、上述のオプションの選択は行わない方針です。

3) 累積その他の包括利益から再分類調整される金額の報告の改訂

平成25年2月にASU第2013-02号「包括利益(ASCトピック220)－累積その他の包括利益から再分類調整される金額の報告」が公表されました。ASU第2013-02号「包括利益(ASCトピック220)」は、包括損益から純利益に再分類調整される重要な項目について、純利益が表示されている計算書上の各項目または注記において再分類調整がもたらす影響についての報告を要求しております。

ASU第2013-02号「包括利益(ASCトピック220)」は、平成24年12月16日以降に開始する連結会計年度（すなわち、平成26年3月期連結会計年度）及び当該連結会計年度に含まれる四半期連結会計期間（すなわち、平成26年3月期連結会計年度の第1四半期）より適用されております。

ASU第2013-02号「包括損益(ASCトピック220)」の開示の詳細は、四半期連結財務諸表注記「10 その他の包括損益」に記載しております。

4) 共同連帯責任契約から生じる債務

平成25年2月にASU第2013-04号「負債(ASCトピック405)－債務合計額が報告日時点で確定している共同連帯責任契約から生じる債務」が公表されました。ASU第2013-04号「負債(ASCトピック405)」は、債務に対して共同連帯責任を負っている報告企業に対し、その債務を、当該企業が支払うことで連帯債務者と合意した金額と、他の連帯債務者に代わって当該企業が支払うことになると予想される金額の合計額として測定することを要求し、また、当該契約に基づく債務に係る情報を開示することを求めています。

ASU第2013-04号「負債(ASCトピック405)」は、平成25年12月16日以降に開始する連結会計年度（すなわち、平成27年3月期連結会計年度）及び当該連結会計年度に含まれる四半期連結会計期間（すなわち、平成27年3月期連結会計年度の第1四半期）より適用されることとなっております。また、ASU第2013-04号「負債(ASCトピック405)」による規定は遡及的に適用されることとなっております。

ASU第2013-04号「負債(ASCトピック405)」の適用による当社及び子会社に対する影響については、現在検討中ですが、当社及び子会社の財政状態及び経営成績に与える重要な影響はないと考えております。

5) 連結外国企業内の子会社等に対する投資に係る累積為替換算調整額に関する親会社の会計処理の改訂

平成25年3月にASU第2013-05号「外貨関連事項(ASCトピック830)－連結外国企業内の特定の子会社もしくは資産グループ、または外国企業に対する投資の認識の中止時の累積為替換算調整額に関する親会社の会計処理」が公表されました。ASU第2013-05号「外貨関連事項(ASCトピック830)」は、企業が連結外国企業内の子会社または資産グループに対する支配的財務持分を失い、その売却もしくは譲渡が当該外国企業の完全な清算または実質的に完全な清算につながる場合にすべての累積為替換算調整額を損益に計上することを要求しております。

ASU第2013-05号「外貨関連事項(ASCトピック830)」は、平成25年12月16日以降に開始する連結会計年度（すなわち、平成27年3月期連結会計年度）及び当該連結会計年度に含まれる四半期連結会計期間（すなわち、平成27年3月期連結会計年度の第1四半期）より適用されることとなっております。

ASU第2013-05号「外貨関連事項(ASCトピック830)」の適用による当社及び子会社に対する影響については、現在検討中ですが、当社及び子会社の財政状態及び経営成績に与える重要な影響はないと考えております。

6) 投資会社の適用範囲、測定及び開示に関する要求の改訂

平成25年6月にASU第2013-08号「金融サービス(投資会社)(ASCトピック946)－適用範囲、測定及び開示に関する要求の改訂」が公表されました。ASU第2013-08号「金融サービス(投資会社)(ASCトピック946)」は、投資会社の特徴を明確にするとともに投資会社の判定における包括的な指針を提供しております。また、投資会社が保有する非支配所有持分の測定方法を改訂し、追加的な開示を求めています。

ASU第2013-08号「金融サービス(投資会社)(ASCトピック946)」は、平成25年12月16日以降に開始する連結会計年度（すなわち、平成27年3月期連結会計年度）及び当該連結会計年度に含まれる四半期連結会計期間（すなわち、平成27年3月期連結会計年度の第1四半期）より適用されることとなっております。

ASU第2013-08号「金融サービス(投資会社)(ASCトピック946)」の適用による当社及び子会社に対する影響については、現在検討中であり、現時点においてその影響額を見積ることはできません。

7) 繰越欠損金等が存在する場合の未認識タックスベネフィットに係る負債の表示

平成25年7月にASU第2013-11号「法人税(ASCトピック740)－繰越欠損金、類似した税務上の損失または繰越税額控除が存在する場合の未認識タックスベネフィットに係る負債の表示」が公表されました。ASU第2013-11号「法人税(ASCトピック740)」は、従来明確に規定されていなかった繰越欠損金、類似した税務上の損失または繰越税額控除が存在する場合の未認識タックスベネフィットに係る負債の貸借対照表における表示を規定するものです。

ASU第2013-11号「法人税(ASCトピック740)」は、平成25年12月16日以降に開始する連結会計年度（すなわち、平成27年3月期連結会計年度）及び当該連結会計年度に含まれる四半期連結会計期間（すなわち、平成27年3月期連結会計年度の第1四半期）より適用されることとなっております。

ASU第2013-11号「法人税(ASCトピック740)」の適用による当社及び子会社に対する影響については、現在検討中ですが、当社及び子会社の財政状態に与える重要な影響はないと考えております。

2 企業結合

前第3四半期連結累計期間に生じた主な企業結合は次のとおりです。

(トーヨーエイテック(株)の取得)

当社は、マツダ(株) (以下、「マツダ」という。) が保有するトーヨーエイテック(株) (以下、「当該会社」という。) の株式の70.0%を平成24年7月20日 (以下、「取得日」という。) に取得し、議決権の70.0%を保有する子会社としました。当該会社は、主たる事業として日本において工作機械及び自動車部品の製造・販売を行っております。

当社は、今後、当該会社の工作機械事業においては当社の海外ネットワークを最大限活用し販売拡大を図り、自動車部品事業においてはマツダへの重要な部品納入サプライヤーとして従来以上に高付加価値製品を提供することで当社とマツダとの協業関係を更に深めて行くことに加え、常勤役員の派遣等を含めた経営への本格的な参画を通して当該会社の更なる企業価値向上を目指します。

取得日現在における、支払対価、非支配持分、取得資産及び引受負債の公正価額は次のとおりです。

項目	金額 (百万円)
支払対価の公正価額 (注) 1 (注) 2	21,000
非支配持分の公正価額	9,000
計	<u>30,000</u>
取得資産及び引受負債の公正価額	
流動資産	18,199
有形固定資産	8,143
その他の無形資産	22,215
その他の資産	626
流動負債	△10,073
固定負債	△9,110
純資産	<u>30,000</u>

(注) 1 支払対価はすべて現金により決済されております。
(注) 2 条件付対価はありません。

取得資産及び引受負債、並びに非支配持分の公正価額は、第三者によるデューデリジェンスを通じて精査した財務・資産状況及びファイナンシャルアドバイザーによる企業価値評価 (割引キャッシュ・フロー法及び株価倍率法) 等を総合的に勘案して算定しております。

当該企業結合に係る取得関連費用として、34百万円の「販売費及び一般管理費」を計上しております。

当第3四半期連結累計期間に生じた主な企業結合は次のとおりです。

(Doleアジア青果物事業及びグローバル加工食品事業の取得)

当社は、子会社であるDole International Holdings(株) (以下、「DIH」という。)を通じて、Dole Food Company, Inc. が保有する、アジア青果物事業及び米国以外のグローバル加工食品事業を展開するDole Asia Holdings Pte. Ltd. (以下、「DAH」という。)の株式、並びにDIHの100%子会社であるDPF Holdings, Inc.を通じて、米国において加工食品事業を展開するDole Packaged Foods, LLCの株式(DAHと併せて以下、「当該会社」という。)を、平成25年4月1日(以下、「取得日」という。)に取得し、それぞれを議決権の100%を保有する子会社としました。取得価額は156,924百万円で、すべて現金により支払っており、条件付対価はありません。なお、前連結会計年度において支払った18,626百万円は、取得日に取得対価に充当しております。

今後は、当社グループが持つグローバルベースの生産、加工、流通、販売体制を活用し、当該会社が持つ世界的に認知度の高いブランドや青果物生産、加工、販売といった経営資源と融合することで、更なるグローバル化の実現を目指します。

なお、当該企業結合については、当四半期報告書が提出できることになった平成26年2月14日現在も取得資産及び引受負債の公正価額測定を継続して実施しておりますが、見積り可能な金額で計上した取得日における取得資産及び引受負債は、それぞれ180,639百万円及び50,676百万円であり、主な内訳はそれぞれたな卸資産、その他の無形資産及び営業債務です。非支配持分の公正価額は、2,093百万円です。なお、当該金額については公正価額測定期間中であるため変更になる可能性があります。

また、当第3四半期連結累計期間における取得関連費用は、157百万円(取得関連費用累計は1,363百万円)であり、「販売費及び一般管理費」に含めて表示しております。

(コネクシオ(株)の子会社化)

当社が議決権の48.27%を保有し、関連会社として持分法を適用していた携帯端末の卸売・小売及び携帯電話を利用したソリューションサービスの提供を主な事業とするコネクシオ(株) (平成25年10月1日付でアイ・ティー・シーネットワーク(株)から商号変更。以下、「当該会社」という。) について、当該会社の平成25年8月9日付の開示にあるとおり、当該会社が自己株式の取得を行ったことに伴い、平成25年8月9日 (以下、「取得日」という。) において当社の議決権保有割合が60.34%に増加し、当該会社は当社の子会社となりました。

今後も当社は筆頭株主として当該会社の業容拡大を支援するとともに、当該会社のネットワークを活用し、当社の携帯電話関連事業の拡大を目指してまいります。

当該企業結合における、議決権保有割合増加後の当社帰属持分 (以下、「支配獲得後当社帰属持分」という。)、非支配持分、取得資産及び引受負債の取得日における公正価額は次のとおりです。

項目	金額 (百万円)
支配獲得後当社帰属持分の公正価額 (注)	22,191
非支配持分の公正価額	14,584
計	<u>36,775</u>
取得資産及び引受負債の公正価額	
流動資産	58,357
有形固定資産	3,896
その他の無形資産	37,029
その他の資産	3,641
流動負債	△55,014
固定負債	<u>△16,447</u>
純資産	<u>31,462</u>
のれん	<u>5,313</u>
計	<u>36,775</u>

(注) 条件付対価はありません。

取得したのれんは、当該会社のネットワークを活用した当社の携帯電話関連事業とのシナジーを勘案した結果、認識したものです。当該のれんは税務上損金算入不能であり、住生活・情報セグメントに含めております。

当該企業結合における、支配獲得後当社帰属持分及び非支配持分の取得日における公正価額は、当該会社の自己株式取得時の株価を基準に算定しております。なお、既保有持分に係る公正価額の再測定に伴い「投資及び有価証券に係る損益」にて、5,196百万円の利益を計上しております。また、当該利益について、1,871百万円の「法人税等一繰延税金」を計上しております。

(取得日からの業績)

前第3四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書に含まれている、トーヨーエイテック(株)の、取得日からの業績は次のとおりです。

項目	前第3四半期連結累計期間 (百万円)
収益	14,825
四半期純利益	567
当社株主に帰属する四半期純利益	397

当第3四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書に含まれている、Dole事業及びコネクシオ(株)それぞれの、取得日からの業績は次のとおりです。

項目	当第3四半期連結累計期間 (百万円)		
	Dole事業	コネクシオ(株)	合計
収益	193,120	93,984	287,104
四半期純利益	6,757	1,540	8,297
当社株主に帰属する四半期純利益	6,569	930	7,499

(プロフォーマ情報)

トーヨーエイテック(株)、Dole事業及びコネクシオ(株)の企業結合が、前第3四半期連結累計期間期首である平成24年4月1日に行われたと仮定した場合のプロフォーマ情報(非レビュー情報)は次のとおりです。

項目	前第3四半期連結累計期間 (百万円)	当第3四半期連結累計期間 (百万円)
収益	3,473,583	4,082,366
四半期純利益	221,039	251,195
当社株主に帰属する四半期純利益	204,423	240,344

3 有価証券及び投資

債券及び市場性のある株式

当社及び子会社は、債券及び市場性のある株式を、売買目的有価証券、売却可能有価証券または満期保有有価証券に区分しております。これら有価証券のうち、前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における、売却可能有価証券、満期保有有価証券の種類ごとの情報は次のとおりです。

	前連結会計年度末			
	原価 (百万円)	未実現利益 (百万円)	未実現損失 (百万円)	公正価額 (百万円)
売却可能有価証券：				
株式	133,655	145,106	341	278,420
債券	21,397	423	62	21,758
小計	155,052	145,529	403	300,178
満期保有有価証券：				
債券	4,243	—	—	4,243
合計	159,295	145,529	403	304,421
	当第3四半期連結会計期間末			
	原価 (百万円)	未実現利益 (百万円)	未実現損失 (百万円)	公正価額 (百万円)
売却可能有価証券：				
株式	118,088	166,776	526	284,338
債券	29,024	696	19	29,701
小計	147,112	167,472	545	314,039
満期保有有価証券：				
債券	4,287	—	—	4,287
合計	151,399	167,472	545	318,326

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における、「現金及び現金同等物」に含まれている売却可能有価証券（債券）の帳簿価額は、それぞれ14,997百万円及び22,998百万円です。

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における、保有する売買目的有価証券の残高は、それぞれ106百万円及び7百万円です。前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間において認識された、各四半期連結会計期間末に保有する売買目的有価証券に係る評価損益の金額は、それぞれ29百万円の損失及び1百万円の利益です。

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間において、売却可能有価証券に分類された市場性のある株式のうち、時価の下落が一時的ではないと判断し、「投資及び有価証券に係る損益」に計上した評価損は、それぞれ4,727百万円及び613百万円です。

前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間において、売却可能有価証券に分類された市場性のある株式のうち、時価の下落が一時的ではないと判断し、「投資及び有価証券に係る損益」に計上した評価損は、それぞれ407百万円及び44百万円です。

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間において、ASCトピック325「投資(その他)」に基づき、株式交換損益の認識が必要となる企業結合が行われたことにより、「投資及び有価証券に係る損益」に計上した株式交換損益は、前第3四半期連結累計期間において110百万円の利益であり、当第3四半期連結累計期間においては発生しておりません。

前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間において、ASCトピック325「投資(その他)」に基づき、株式交換損益の認識が必要となる企業結合が行われたことにより、「投資及び有価証券に係る損益」に計上した株式交換損益は、前第3四半期連結会計期間において22百万円の利益であり、当第3四半期連結会計期間においては発生しておりません。

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末において、未実現損失が生じている売却可能有価証券の情報は次のとおりです。

	前連結会計年度末					
	下落期間 12か月未満		下落期間 12か月以上		合計	
	公正価額 (百万円)	未実現損失 (百万円)	公正価額 (百万円)	未実現損失 (百万円)	公正価額 (百万円)	未実現損失 (百万円)
売却可能有価証券：						
株式	4,137	341	—	—	4,137	341
債券	1,452	62	—	—	1,452	62
合計	5,589	403	—	—	5,589	403

	当第3四半期連結会計期間末					
	下落期間 12か月未満		下落期間 12か月以上		合計	
	公正価額 (百万円)	未実現損失 (百万円)	公正価額 (百万円)	未実現損失 (百万円)	公正価額 (百万円)	未実現損失 (百万円)
売却可能有価証券：						
株式	7,943	526	—	—	7,943	526
債券	923	19	—	—	923	19
合計	8,866	545	—	—	8,866	545

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末において、公正価額が帳簿価額に対して下落している売却可能有価証券の銘柄数は28及び23です。当該売却可能有価証券の業種は当社及び子会社の取引先を中心として多岐にわたっておりますが、公正価額が下落した主な理由は株式市場での時価の下落に起因するものです。前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末において、これらの未実現損失が生じている売却可能有価証券の公正価額は帳簿価額と比較して0.4%～29.9%及び0.6%～29.9%下落しており、下落期間は9か月未満となっております。当社及び子会社は、当該下落率と下落期間及び投資先の将来性を見込んだ結果、これらの売却可能有価証券の公正価額は短期的に回復可能と考えており、また、当該期間にわたり保有を継続する意思と能力を有していることから、これらの売却可能有価証券については一時的でない価値の下落による減損には該当しないと判断しております。

当第3四半期連結会計期間末における、売却可能有価証券及び満期保有有価証券に含まれる債券の満期別情報は次のとおりです。

	原価 (百万円)	公正価額 (百万円)
売却可能有価証券：		
満期まで1年以内	26,935	27,410
1年超5年以内	904	1,076
5年超10年以内	—	—
10年超	1,185	1,215
合計	29,024	29,701
満期保有有価証券：		
満期まで1年以内	—	—
1年超5年以内	25	25
5年超10年以内	4,262	4,262
10年超	—	—
合計	4,287	4,287

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間における、売却可能有価証券の売却による実現利益総額は、それぞれ8,173百万円及び24,754百万円であり、実現損失総額は、それぞれ2百万円及び98百万円です。前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間における売却可能有価証券の売却による収入（未収金を含む）は、それぞれ19,596百万円及び42,471百万円です。

前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間における、売却可能有価証券の売却による実現利益総額は、それぞれ5,118百万円及び3,769百万円であり、実現損失総額は、それぞれ2百万円及び27百万円です。前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間における売却可能有価証券の売却による収入（未収金を含む）は、それぞれ17,915百万円及び11,199百万円です。

債券及び市場性のある株式以外の投資

「その他の投資」に含まれる債券及び市場性のある株式以外の投資は、子会社・関連会社以外の、顧客や仕入先等に対する非上場の投資及び長期差入保証金等によって構成されております。前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末の残高は、それぞれ244,418百万円及び320,817百万円です。

当社及び子会社が保有する、原価法で評価される市場性のない持分証券の帳簿価額は、公正価額を容易に入手することが困難なため、取得原価で計上しております。公正価額に重大な影響を及ぼす事象の発生や状況の変化が生じた場合には、公正価額の測定を行い、その下落が一時的でないとは判断された場合には減損を認識しております。

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末の当該投資の帳簿価額は122,319百万円及び195,935百万円です。このうち、公正価額の測定を行わなかった投資の残高は前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末においてそれぞれ121,116百万円及び195,698百万円です。

4 金融債権

ASCトピック310「債権」は、金融債権に関する情報をクラスまたはポートフォリオセグメント別に開示することを要求しており、当該クラスまたはポートフォリオセグメントの区分については、法人向債権及び個人向債権により区分して表示しております。金融債権は、貸付金・受取手形・リース債権（オペレーティング・リースを除く）及び当初約定ベースで決済期日が1年を超える売掛金等が該当します。

当社及び子会社における取引の大半は法人向であり、取引先の信用状況の悪化や経営破綻等により、当社及び子会社が保有する売上債権や融資債権等の回収が不能となるリスクがあるため、個々の取引先の格付や財務情報等に基づきリスク管理を行っております。一部の子会社では自動車・バイクローン等の個人向取引を行っておりますが、個人向取引は格付や財務情報でリスクを測定することができないため、延滞日数や延滞回数等に基づいてリスク管理を行っております。

(1) 信用リスクに関する情報

当社及び子会社は、債務者の財政状態や支払状況等に基づき信用リスクを評価しており、財務諸表の情報や法的手続開始の有無に基づき信用リスクが高いと判定される債権については、回収不能見込額に対して個別に貸倒引当金を計上したうえで個別貸倒引当金対象債権に区分しております。それ以外の金融債権については一般債権に区分し、債権の回収状況や過去の貸倒実績率等に基づく信用リスクに応じた貸倒引当金を計上しております。なお、一般債権及び個別貸倒引当金対象債権は四半期ごとに区分を見直しております。

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における、一般債権及び個別貸倒引当金対象債権のクラスごとの情報は次のとおりです。

	前連結会計年度末（百万円）		
	法人向債権	個人向債権	金融債権合計
一般債権	312,461	55,454	367,915
個別貸倒引当金対象債権	43,618	—	43,618
合計	356,079	55,454	411,533

	当第3四半期連結会計期間末（百万円）		
	法人向債権	個人向債権	金融債権合計
一般債権	355,256	61,323	416,579
個別貸倒引当金対象債権	38,252	—	38,252
合計	393,508	61,323	454,831

(2) 回収が遅延している金融債権及び利息不計上の金融債権

当社及び子会社は、契約された支払期日までに入金が完了しない場合を回収遅延と定義し、債務者から契約上の利払日を相当期間経過しても利息の支払を受けていない場合及び債務者が経営破綻、あるいは実質的に経営破綻の状態にあると認められる場合に、当該債権に係る金利の未収利息の計上を停止しております。なお、未収利息の計上を停止した債権に係る利息収益の認識は、原則として現金主義によっております。

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における、金融債権のクラスごとの回収遅延の情報は次のとおりです。

	前連結会計年度末（百万円）		
	法人向債権	個人向債権	金融債権合計
支払期日未到来及び支払期日経過後6か月以下	313,113	54,428	367,541
支払期日経過後6か月超～1年以下	5,725	664	6,389
支払期日経過後1年超	37,241	362	37,603
合計	356,079	55,454	411,533

	当第3四半期連結会計期間末（百万円）		
	法人向債権	個人向債権	金融債権合計
支払期日未到来及び支払期日経過後6か月以下	357,392	60,246	417,638
支払期日経過後6か月超～1年以下	211	670	881
支払期日経過後1年超	35,905	407	36,312
合計	393,508	61,323	454,831

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における、利息不計上の金融債権及び支払期日から90日経過後も未収利息を計上している金融債権のクラスごとの情報は次のとおりです。

	前連結会計年度末（百万円）		
	法人向債権	個人向債権	金融債権合計
利息不計上の金融債権	43,169	267	43,436
支払期日から90日経過後も未収利息を計上している金融債権	32	2,376	2,408

	当第3四半期連結会計期間末（百万円）		
	法人向債権	個人向債権	金融債権合計
利息不計上の金融債権	37,942	328	38,270
支払期日から90日経過後も未収利息を計上している金融債権	89	1,136	1,225

(3) 貸倒引当金

当社及び子会社は、期末日時点において発生の可能性が高く、かつその金額を合理的に見積ることができる場合には、当該損失の見積額を貸倒引当金として計上しております。当社及び子会社の大半は法人向取引を行っておりますが、一部の子会社は個人向取引を行っております。法人向債権については、財務諸表の情報や法的手続開始の有無等に基づき個別に回収不能見込額を見積り、貸倒引当金を計上しております。個別の貸倒引当金の計上が不要であると判断される法人向債権については債権の回収状況や過去の貸倒実績率等に基づく貸倒引当金を計上しております。個人向債権については、延滞日数や延滞回数に応じた貸倒実績率等に基づく貸倒引当金を計上しております。法的手続による決定や債務者の財務状況や支払能力等に基づいて回収不能であることが明らかとなった債権については、償却を行っております。

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間における、金融債権に対して設定した貸倒引当金のポートフォリオセグメントごとの推移は次のとおりです。

	前第3四半期連結累計期間（百万円）		
	法人向債権	個人向債権	金融債権合計
期首残高	40,611	1,768	42,379
貸倒引当金繰入額（戻入額）－純額	△607	2,233	1,626
取崩額	△6,191	△2,177	△8,368
その他増減（注）	512	39	551
期末残高	34,325	1,863	36,188

	当第3四半期連結累計期間（百万円）		
	法人向債権	個人向債権	金融債権合計
期首残高	34,666	1,842	36,508
貸倒引当金繰入額（戻入額）－純額	498	2,388	2,886
取崩額	△108	△2,275	△2,383
その他増減（注）	△3,393	13	△3,380
期末残高	31,663	1,968	33,631

（注）その他増減には主に連結子会社の異動や為替変動等の影響が含まれております。

前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間における、金融債権に対して設定した貸倒引当金のポートフォリオセグメントごとの推移は次のとおりです。

	前第3四半期連結会計期間（百万円）		
	法人向債権	個人向債権	金融債権合計
四半期首残高	33,674	1,659	35,333
貸倒引当金繰入額（戻入額）－純額	143	841	984
取崩額	△296	△808	△1,104
その他増減（注）	804	171	975
四半期末残高	34,325	1,863	36,188

	当第3四半期連結会計期間（百万円）		
	法人向債権	個人向債権	金融債権合計
四半期首残高	31,614	1,780	33,394
貸倒引当金繰入額（戻入額）－純額	19	790	809
取崩額	△23	△688	△711
その他増減（注）	53	86	139
四半期末残高	31,663	1,968	33,631

（注）その他増減には主に連結子会社の異動や為替変動等の影響が含まれております。

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における、金融債権に対して設定した貸倒引当金のポートフォリオセグメントごとの情報は次のとおりです。

	前連結会計年度末（百万円）		
	法人向債権	個人向債権	金融債権合計
貸倒実績率等による貸倒引当金	810	1,842	2,652
個別貸倒引当金	33,856	—	33,856
合計	34,666	1,842	36,508

	当第3四半期連結会計期間末（百万円）		
	法人向債権	個人向債権	金融債権合計
貸倒実績率等による貸倒引当金	1,034	1,968	3,002
個別貸倒引当金	30,629	—	30,629
合計	31,663	1,968	33,631

ASCトピック310「債権」における「信用状態が悪化した金融債権」に対する貸倒引当金については、前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末の残高に重要性はありません。

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における、上記に対応する金融債権のポートフォリオセグメントごとの情報は次のとおりです。

	前連結会計年度末（百万円）		
	法人向債権	個人向債権	金融債権合計
貸倒実績率等による貸倒引当金対象金融債権	223,740	55,422	279,162
個別貸倒引当金対象金融債権	43,618	—	43,618
合計	267,358	55,422	322,780

	当第3四半期連結会計期間末（百万円）		
	法人向債権	個人向債権	金融債権合計
貸倒実績率等による貸倒引当金対象金融債権	236,712	61,287	297,999
個別貸倒引当金対象金融債権	38,252	—	38,252
合計	274,964	61,287	336,251

ASCトピック310「債権」における「信用状態が悪化した金融債権」については、前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末の残高に重要性はありません。

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間における金融債権の購入実績はなく、また前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間における金融債権の売却額は、それぞれ2,614百万円及び1,179百万円です。売却した金融債権は、すべて法人向債権となります。

前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間における金融債権の購入実績はなく、また前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間における金融債権の売却額は、それぞれ1,215百万円及び368百万円です。売却した金融債権は、すべて法人向債権となります。

(4) 減損が生じていると判定される金融債権

当社及び子会社は、減損が生じていると判定される金融債権に関し、将来見込まれるキャッシュ・フローを当該債権の実効利率で現在価値に割引いた金額、客観的な市場価格、または当該債権が担保に依存している場合には、その公正担保価値のいずれかにより当該債権の公正価額を評価し、帳簿価額が公正価額を下回った際に貸倒引当金を設定しております。

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における、減損が生じていると判定される金融債権の残高及びこれに対して設定した貸倒引当金のクラスごとの情報は次のとおりです。減損が生じていると判定される金融債権と貸倒引当金の差額については、担保等による回収が可能であると判断しております。

	前連結会計年度末（百万円）		
	法人向債権	個人向債権	金融債権合計
減損が生じていると判定される金融債権	43,618	—	43,618
上記金融債権に対して設定した引当金	33,856	—	33,856

	当第3四半期連結会計期間末（百万円）		
	法人向債権	個人向債権	金融債権合計
減損が生じていると判定される金融債権	38,252	—	38,252
上記金融債権に対して設定した引当金	30,629	—	30,629

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間における、減損が生じていると判定される金融債権の期中平均残高は次のとおりです。

	前第3四半期連結累計期間（百万円）		
	法人向債権	個人向債権	金融債権合計
減損が生じていると判定される金融債権の期中平均残高	47,578	903	48,481

	当第3四半期連結累計期間（百万円）		
	法人向債権	個人向債権	金融債権合計
減損が生じていると判定される金融債権の期中平均残高	40,935	—	40,935

減損が生じていると判定される金融債権について、前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間に計上した受取利息の金額に重要性はありません。

前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間における、減損が生じていると判定される金融債権の期中平均残高は次のとおりです。

	前第3四半期連結会計期間（百万円）		
	法人向債権	個人向債権	金融債権合計
減損が生じていると判定される金融債権の期中平均残高	46,867	1,376	48,243

	当第3四半期連結会計期間（百万円）		
	法人向債権	個人向債権	金融債権合計
減損が生じていると判定される金融債権の期中平均残高	38,353	—	38,353

減損が生じていると判定される金融債権について、前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間に計上した受取利息の金額に重要性はありません。

(5) 問題の生じた債務の再編

前第3四半期連結累計期間において、当社が保有する金融債権に関し、債務者とのリスケジュールの合意及び契約の締結をいたしました。当該契約では、元本と利息の合計額15,516百万円について、約8割に相当する金額が債務者に対して免除され、残る2割に相当する3,103百万円が平成43年までの間に分割して債務者から当社に支払われることとなりました。

当社におきましては、当該金融債権残高の全額に対し、貸倒引当金の設定を行っており、当該契約が、当社の財政状態及び経営成績に与える影響は軽微です。

当第3四半期連結累計期間において、当社及び子会社で行った問題の生じた債務の再編の金額及び過去12か月以内に問題の生じた債務の再編として修正され、当該期間中に債務不履行となった金融債権の金額に重要性はありません。

前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間において、当社及び子会社で行った問題の生じた債務の再編の金額及び過去12か月以内に問題の生じた債務の再編として修正され、当該期間中に債務不履行となった金融債権の金額に重要性はありません。

5 担保に差入れた資産

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末において、次の資産を担保に差入れております。

	前連結会計年度末 (百万円)	当第3四半期 連結会計期間末 (百万円)
定期預金	199	200
営業債権等	15,444	18,196
たな卸資産	2,254	3,994
投資及び長期債権	19,099	19,030
有形固定資産等	13,400	11,315
合計	50,396	52,735

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における、被担保債務は次のとおりです。

	前連結会計年度末 (百万円)	当第3四半期 連結会計期間末 (百万円)
営業債務等	2,328	4,585
短期借入金	3,567	4,279
長期債務	5,913	4,399
合計	11,808	13,263

上記の他に、支払手形に含めている引受輸入手形については、手形引受銀行に差入れたトラスト・レシートにより、手形引受銀行へ当該輸入商品またはその売上代金を担保として差入れております。しかし、その担保に差入れている資産の額は、輸入取引量が膨大なことから実務上算定が困難なため、上記数値には含めておりません。

短期及び長期借入金については、慣習として、貸主の要求により借入に対する担保の設定または保証人の提供を行うこと、並びに現在の担保物件が特定の借入に対するものか否かを問わず現在及び将来の借入に対する担保として貸主は取扱えることを約定しております。また、銀行からの大部分の借入については、銀行預金と返済期日の到来した借入金（偶発債務より発生する債務を含む）または約定不履行により期限前決済となった借入金を貸主は相殺する権利を有することを約定しております。

6 退職給与及び年金

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間並びに前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間における、退職給与及び年金費用の内訳は次のとおりです。

	前第3四半期 連結累計期間 (百万円)	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)
勤務費用	5,818	6,383
利息費用	3,830	3,679
年金資産の期待収益	△5,394	△5,146
過去勤務債務の償却	△4,215	△1,675
数理計算上の差異の償却	8,719	6,915
清算損益	△62	—
純期間年金費用	8,696	10,156

	前第3四半期 連結会計期間 (百万円)	当第3四半期 連結会計期間 (百万円)
勤務費用	1,798	1,973
利息費用	1,199	1,258
年金資産の期待収益	△1,846	△1,905
過去勤務債務の償却	△1,391	△517
数理計算上の差異の償却	2,866	2,363
清算損益	—	—
純期間年金費用	2,626	3,172

7 1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間並びに前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間における、基本的1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益の計算は次のとおりです。

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間
分子項目（百万円）：		
当社株主に帰属する四半期純利益	208,134	240,326
希薄化効果のある証券の影響 転換権付優先株式	△116	△1,120
潜在株式調整後当社株主に帰属する四半期純利益	208,018	239,206
分母項目（株）：		
加重平均発行済株式数（自己株式を除く）	1,580,519,853	1,580,470,037
基本的1株当たり		
当社株主に帰属する四半期純利益（円）	131.69	152.06
潜在株式調整後1株当たり		
当社株主に帰属する四半期純利益（円）	131.61	151.35

	前第3四半期 連結会計期間	当第3四半期 連結会計期間
分子項目（百万円）：		
当社株主に帰属する四半期純利益	65,887	75,209
希薄化効果のある証券の影響 転換権付優先株式	△51	△401
潜在株式調整後当社株主に帰属する四半期純利益	65,836	74,808
分母項目（株）：		
加重平均発行済株式数（自己株式を除く）	1,580,517,637	1,580,466,906
基本的1株当たり		
当社株主に帰属する四半期純利益（円）	41.69	47.59
潜在株式調整後1株当たり		
当社株主に帰属する四半期純利益（円）	41.65	47.33

8 セグメント情報

当社グループは、多種多様な商品のトレーディング、ファイナンス、物流及びプロジェクト案件の企画・調整等を行う他、資源開発投資・事業投資等の実行を通して各種機能・ノウハウ等を培い、かつ保有しております。これらの総合力を活かし、幅広い業界並びにグローバルなネットワークを通じて、6つのディビジョンカンパニーが、繊維や食料、住生活・情報等の生活消費関連分野、機械や化学品、石油製品、鉄鋼製品等の基礎産業関連分野、そして金属資源、エネルギー資源等の資源関連分野において、多角的な事業活動を展開しております。

この多角的な営業活動にあわせて、当社は、以下の区分によりオペレーティングセグメント情報を表示しております。この区分は、経営者が業務上の意思決定や業績評価等のために定期的を使用している社内管理上の区分です。

- 繊維： 繊維原料、糸、織物から衣料品、服飾雑貨、その他生活消費関連分野のすべてにおいてグローバルに事業展開を行っております。また、ブランドビジネスの海外展開や、リーテイル分野でのインターネット販売等の販路展開にも取り組んでおります。
- 機械： プラント、橋梁、鉄道等のインフラ関連プロジェクト及び関連機器・サービスの取扱、IPP、水・環境関連事業及び関連機器・サービスの取扱、船舶、航空機、自動車、建設機械、産業機械、工作機械、環境機器・電子機器等の単体機械及び関連機材取扱、再生可能・代替エネルギー関連ビジネス等の環境に配慮した事業を展開しております。更に、医療・健康関連分野において、医薬品・医療機器等の取扱や関連サービスを提供しております。
- 金属： 金属鉱産資源開発事業、鉄鋼製品加工事業、太陽光・太陽熱発電事業、温室効果ガス排出権取引を含む環境ビジネス、鉄鉱石、石炭、その他製鉄・製鋼原料、非鉄・軽金属、鉄鋼製品、原子力関連、太陽光・太陽熱発電関連の国内・貿易取引を行っております。
- エネルギー・化学品： エネルギー資源開発事業、原油、石油製品、ガス関連の国内・貿易取引、基礎化学品、精密化学品、合成樹脂、無機化学品の取扱と事業を推進しております。
- 食料： 原料からリーテイルまでの食料全般にわたる事業領域において、国内外で効率的な商品の生産・流通・販売を推進しております。
- 住生活・情報： 住宅資材事業、紙パルプ事業、天然ゴム事業、タイヤ事業等の生活資材分野、IT・ネットサービス事業、携帯流通及びアフターサービス事業等の情報通信分野、各種保険事業や物流事業等の保険・物流分野、不動産開発・分譲・賃貸・管理業、各種金融サービス事業等の建設・金融分野において事業を推進しております。

経営者は管理上、米国会計基準に基づく「当社株主に帰属する四半期純利益」をはじめとするいくつかの指標に基づき、各セグメントの業績評価を行っております。また、内部での経営意思決定を目的として、当社独自の経営管理手法を取入れております。

セグメント間の内部取引における価額は、外部顧客との取引価額に準じております。前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間並びに前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間において、単一顧客に対する重要な売上高はありません。

【オペレーティングセグメント情報】

	前第3四半期連結累計期間			
	繊維 (百万円)	機械 (百万円)	金属 (百万円)	エネルギー・ 化学品 (百万円)
売上高：				
外部顧客に対する売上高	441,297	765,867	428,946	3,945,807
セグメント間内部売上高	592	541	411	17,031
合計	441,889	766,408	429,357	3,962,838
売上総利益	94,926	64,410	56,230	116,366
持分法による投資損益	10,646	10,068	30,617	△5,450
当社株主に帰属する 四半期純利益	24,610	22,388	59,131	13,610
セグメント別資産	481,000	843,456	1,075,231	1,343,434
減価償却費等	4,133	7,971	11,054	17,562
	食料 (百万円)	住生活・情報 (百万円)	その他及び修正消去 (百万円)	連結 (百万円)
売上高：				
外部顧客に対する売上高	2,554,829	1,094,769	42,345	9,273,860
セグメント間内部売上高	4,290	16,442	△39,307	—
合計	2,559,119	1,111,211	3,038	9,273,860
売上総利益	154,332	172,119	9,363	667,746
持分法による投資損益	19,739	20,330	△1,176	84,774
当社株主に帰属する 四半期純利益	38,321	36,234	13,840	208,134
セグメント別資産	1,426,123	1,272,737	489,862	6,931,843
減価償却費等	6,837	10,679	4,087	62,323

	前連結会計年度末			
	繊維 (百万円)	機械 (百万円)	金属 (百万円)	エネルギー・ 化学品 (百万円)
セグメント別資産	486,849	890,890	1,175,200	1,335,207
	食料 (百万円)	住生活・情報 (百万円)	その他及び修正消去 (百万円)	連結 (百万円)
セグメント別資産	1,370,199	1,363,449	495,652	7,117,446

当第3四半期連結累計期間

	繊維 (百万円)	機械 (百万円)	金属 (百万円)	エネルギー・ 化学品 (百万円)
売上高：				
外部顧客に対する売上高	488,238	904,841	538,694	4,545,696
セグメント間内部売上高	683	198	215	17,494
合計	488,921	905,039	538,909	4,563,190
売上総利益	96,668	75,392	74,862	119,319
持分法による投資損益	8,111	13,363	23,360	△5,380
当社株主に帰属する 四半期純利益	23,704	32,865	56,794	15,691
セグメント別資産	518,185	960,351	1,303,106	1,440,227
減価償却費等	3,965	8,933	16,300	17,308
	食料 (百万円)	住生活・情報 (百万円)	その他及び修正消去 (百万円)	連結 (百万円)
売上高：				
外部顧客に対する売上高	2,872,051	1,322,614	67,884	10,740,018
セグメント間内部売上高	4,718	17,969	△41,277	—
合計	2,876,769	1,340,583	26,607	10,740,018
売上総利益	184,087	194,017	5,983	750,328
持分法による投資損益	16,199	30,086	△3,379	82,360
当社株主に帰属する 四半期純利益	42,086	56,457	12,729	240,326
セグメント別資産	1,735,489	1,577,936	541,878	8,077,172
減価償却費等	9,952	14,313	3,984	74,755

前第3四半期連結会計期間

	繊維 (百万円)	機械 (百万円)	金属 (百万円)	エネルギー・ 化学品 (百万円)
売上高：				
外部顧客に対する売上高	151,444	265,492	140,195	1,368,556
セグメント間内部売上高	166	144	120	5,356
合計	151,610	265,636	140,315	1,373,912
売上総利益	33,662	21,632	17,170	36,768
持分法による投資損益	2,212	2,485	8,047	△5,888
当社株主に帰属する 四半期純利益	6,588	7,617	16,136	△1,372
セグメント別資産	481,000	843,456	1,075,231	1,343,434
減価償却費等	1,404	3,085	4,153	6,061
	食料 (百万円)	住生活・情報 (百万円)	その他及び修正消去 (百万円)	連結 (百万円)
売上高：				
外部顧客に対する売上高	875,445	344,819	12,405	3,158,356
セグメント間内部売上高	1,633	5,225	△12,644	—
合計	877,078	350,044	△239	3,158,356
売上総利益	52,039	52,694	4,310	218,275
持分法による投資損益	9,170	6,511	△251	22,286
当社株主に帰属する 四半期純利益	12,987	12,845	11,086	65,887
セグメント別資産	1,426,123	1,272,737	489,862	6,931,843
減価償却費等	2,350	3,100	1,290	21,443

当第3四半期連結会計期間				
	繊維 (百万円)	機械 (百万円)	金属 (百万円)	エネルギー・ 化学品 (百万円)
売上高：				
外部顧客に対する売上高	169,221	311,495	191,067	1,570,081
セグメント間内部売上高	265	62	104	5,664
合計	169,486	311,557	191,171	1,575,745
売上総利益	33,997	25,906	26,546	40,456
持分法による投資損益	2,300	1,776	△360	△3,661
当社株主に帰属する 四半期純利益	7,414	8,725	14,799	4,177
セグメント別資産	518,185	960,351	1,303,106	1,440,227
減価償却費等	1,309	3,059	5,536	5,809
	食料 (百万円)	住生活・情報 (百万円)	その他及び修正消去 (百万円)	連結 (百万円)
売上高：				
外部顧客に対する売上高	1,014,357	499,433	24,948	3,780,602
セグメント間内部売上高	1,774	6,331	△14,200	-
合計	1,016,131	505,764	10,748	3,780,602
売上総利益	63,719	71,203	3,837	265,664
持分法による投資損益	7,655	10,786	△3,020	15,476
当社株主に帰属する 四半期純利益	16,130	16,591	7,373	75,209
セグメント別資産	1,735,489	1,577,936	541,878	8,077,172
減価償却費等	3,508	5,560	1,363	26,144

(注) 1 売上高は日本の会計慣行に従って表示しております。

2 「その他及び修正消去」の欄には、主に特定のオペレーティングセグメントに属さない国内、海外における全社的な損益・資産等が含まれております。

9 資本

(1) 株主資本

日本における会社法（以下「会社法」）の規定により、株式の発行にあたっては、別段の定めがある場合を除き、株式の発行に際して払込または給付された額の2分の1以上を資本金として計上しなければならないとされております。

会社法の規定上、資本準備金と利益準備金の合計額が資本金の4分の1に達するまでは、剰余金の配当を行うにあたり、当該剰余金の配当により減少する剰余金の10分の1を乗じて得た額を資本準備金（資本剰余金の配当の場合）または利益準備金（利益剰余金の配当の場合）として計上しなければならないとされております。

会社法により、剰余金の配当または自己株式の取得に係る分配可能額に関し一定の制限が設けられております。分配可能額は、日本の会計基準に従って計算された当社個別財務諸表上の利益剰余金等の金額に基づいて算定されます。当四半期連結財務諸表に含めている米国会計基準への修正に伴う調整については、分配可能額の算定にあたって何ら影響を及ぼしません。当第3四半期連結会計期間末における当社の分配可能額は、383,120百万円です（但し、その後の自己株式の取得等により、上記分配可能額は変動する可能性があります）。

会社法においては、株主総会の決議により、期末配当に加え、期中いつでも剰余金の配当を実施することが可能です。また、一定の要件（取締役会の他、監査役会及び会計監査人を設置し、かつ取締役の任期を1年とするもの）を満たす株式会社については、定款で定めている場合には、取締役会の決議によって剰余金の配当（現物配当を除く）を決定できることが会社法に規定されております。また、取締役会設置会社について、定款で定めている場合は、一事業年度の途中において一回に限り取締役会の決議によって剰余金の配当（金銭による配当に限る）を行うことができるとされております。

また、取締役会の決議により自己株式の処分及び定款で定めている場合は自己株式の取得が認められております。但し、自己株式の取得額は前述の分配可能額の範囲内に制限されております。

加えて、会社法では、株主総会の決議により、剰余金の全部または一部を資本金に組入れる等、資本金・準備金・剰余金間で計数を変動させることが認められております。

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における、授権株式数、発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数は次のとおりです。

	前連結会計年度末 (平成25年3月31日) (千株)	当第3四半期 連結会計期間末 (平成25年12月31日) (千株)
授権株式数：	3,000,000	3,000,000
発行済株式総数：		
普通株式	1,584,889	1,584,889
自己株式数：		
普通株式	4,383	4,458

当第3四半期連結累計期間における配当金支払額は次のとおりです。

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月21日 定時株主総会	普通株式	31,635百万円	20円	平成25年3月31日	平成25年6月24日	利益剰余金
平成25年11月5日 取締役会	普通株式	33,217百万円	21円	平成25年9月30日	平成25年12月2日	利益剰余金

(2) 資本の変動

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間における、資本合計、株主資本及び非支配持分の期首から期末への残高変動の内訳は次のとおりです。

	前第3四半期連結累計期間		
	資本合計 (百万円)	株主資本 (百万円)	非支配持分 (百万円)
期首残高	1,696,141	1,363,797	332,344
四半期純利益	224,180	208,134	16,046
その他の包括損益			
為替換算調整額	26,399	31,863	△5,464
年金債務調整額	2,887	2,840	47
未実現有価証券損益	2,641	2,720	△79
未実現デリバティブ評価損益	△2,363	△2,255	△108
当社株主への配当	△75,134	△75,134	—
非支配持分への配当	△5,641	—	△5,641
自己株式の取得及び処分による増減	△9	△9	—
子会社持分の追加取得及び一部売却による増減	378	531	△153
その他増減(注)	△9,393	—	△9,393
期末残高	1,860,086	1,532,487	327,599

	当第3四半期連結累計期間		
	資本合計 (百万円)	株主資本 (百万円)	非支配持分 (百万円)
期首残高	2,112,619	1,765,435	347,184
四半期純利益	250,981	240,326	10,655
その他の包括損益			
為替換算調整額	117,772	112,005	5,767
年金債務調整額	2,523	2,372	151
未実現有価証券損益	20,999	20,326	673
未実現デリバティブ評価損益	△2,242	△2,164	△78
当社株主への配当	△64,852	△64,852	—
非支配持分への配当	△10,726	—	△10,726
自己株式の取得及び処分による増減	△106	△106	—
子会社持分の追加取得及び一部売却による増減	△286	△111	△175
その他増減(注)	14,941	—	14,941
期末残高	2,441,623	2,073,231	368,392

(注) 「その他増減」は、非支配持分からの資本引受及び資本返還、並びに新規連結または連結除外に伴う増減です。

当社株主に帰属する四半期純利益及び非支配持分との資本取引等による変動額は次のとおりです。

	前第3四半期連結累計期間 (百万円)	当第3四半期連結累計期間 (百万円)
当社株主に帰属する四半期純利益	208,134	240,326
子会社持分の追加取得及び一部売却による資本剰余金の増減等	600	51
当社株主に帰属する四半期純利益及び非支配持分との資本取引等による変動額	208,734	240,377

当第3四半期連結累計期間において、株式の売却取引や第三者との合併等により、子会社に対する支配喪失を伴う所有持分の変動について認識した損益の金額に重要性はありません。

10 その他の包括損益

当第3四半期連結累計期間における、累積その他の包括損益を構成する各項目別の変動は次のとおりです。

	当第3四半期連結累計期間 (百万円)				合計
	為替換算調整額	年金債務調整額	未実現有価証券 損益	未実現デリバ ティブ評価損益	
期首残高	△57,605	△87,373	99,018	△2,979	△48,939
期中発生額	111,386	△880	35,516	△950	145,072
再分類調整	619	3,252	△15,190	△1,214	△12,533
非支配持分との資本取引	△10	△21	△131	—	△162
期中増減	111,995	2,351	20,195	△2,164	132,377
期末残高	54,390	△85,022	119,213	△5,143	83,438

(注) 税効果控除後の金額を表示しております。期中発生額に係る税効果の金額は、それぞれ為替換算調整額△96百万円、年金債務調整額193百万円、未実現有価証券損益△13,487百万円、未実現デリバティブ評価損益724百万円です。

また、当第3四半期連結累計期間における、累積その他の包括損益からの再分類調整の内訳は、次のとおりです。

累積その他の包括損益の構成項目	当第3四半期連結累計期間	
	四半期純利益への再分類調整 (百万円)	四半期連結損益計算書において 影響を受ける勘定科目
為替換算調整額：	△619	投資及び有価証券に係る損益
	—	法人税等
	△619	四半期純利益
	—	非支配持分に帰属する四半期純利益
	△619	当社株主に帰属する四半期純利益
年金債務調整額：	△5,241	販売費及び一般管理費
	1,862	法人税等
	△3,379	四半期純利益
	127	非支配持分に帰属する四半期純利益
	△3,252	当社株主に帰属する四半期純利益
未実現有価証券損益：	24,656	投資及び有価証券に係る損益
	△9,185	法人税等
	15,471	四半期純利益
	△281	非支配持分に帰属する四半期純利益
	15,190	当社株主に帰属する四半期純利益
未実現デリバティブ評価損益：	2,777	その他の損益
	△237	支払利息
	△637	売買取引に係る差損益及び手数料
	△53	その他
	△686	法人税等
	1,164	四半期純利益
	50	非支配持分に帰属する四半期純利益
	1,214	当社株主に帰属する四半期純利益
再分類調整合計	12,533	

当第3四半期連結会計期間における、累積その他の包括損益を構成する各項目別の変動は次のとおりです。

	当第3四半期連結会計期間 (百万円)				合計
	為替換算調整額	年金債務調整額	未実現有価証券 損益	未実現デリバ ティブ評価損益	
四半期首残高	△16,821	△85,826	108,408	△4,272	1,489
期中発生額	70,605	△317	11,766	△220	81,834
再分類調整	619	1,142	△831	△651	279
非支配持分との資本取引	△13	△21	△130	—	△164
期中増減	71,211	804	10,805	△871	81,949
四半期末残高	54,390	△85,022	119,213	△5,143	83,438

(注) 税効果控除後の金額を表示しております。期中発生額に係る税効果の金額は、それぞれ為替換算調整額△96百万円、年金債務調整額64百万円、未実現有価証券損益△2,609百万円、未実現デリバティブ評価損益241百万円です。

また、当第3四半期連結会計期間における、累積その他の包括損益からの再分類調整の内訳は、次のとおりです。

累積その他の包括損益の構成項目	当第3四半期連結会計期間	
	四半期純利益への再分類調整 (百万円)	四半期連結損益計算書において 影響を受ける勘定科目
為替換算調整額：	△619	投資及び有価証券に係る損益
	—	法人税等
	△619	四半期純利益
	—	非支配持分に帰属する四半期純利益
	△619	当社株主に帰属する四半期純利益
年金債務調整額：	△1,847	販売費及び一般管理費
	659	法人税等
	△1,188	四半期純利益
	46	非支配持分に帰属する四半期純利益
	△1,142	当社株主に帰属する四半期純利益
未実現有価証券損益：	1,425	投資及び有価証券に係る損益
	△549	法人税等
	876	四半期純利益
	△45	非支配持分に帰属する四半期純利益
	831	当社株主に帰属する四半期純利益
未実現デリバティブ評価損益：	965	その他の損益
	△70	支払利息
	91	売買取引に係る差損益及び手数料
	△338	法人税等
	648	四半期純利益
	3	非支配持分に帰属する四半期純利益
	651	当社株主に帰属する四半期純利益
再分類調整合計	△279	

11 デリバティブ及びヘッジ活動

当社及び子会社は、営業活動を行うにあたり、種々のリスクにさらされております。当社及び子会社は、主として以下のリスクを軽減するために、デリバティブを使用しております。

為替変動リスク：

当社及び子会社は、外国為替相場の変動の影響にさらされている資産または負債を保有しておりますが、主に米ドルと日本円の交換から生じる為替変動リスクを軽減するために、為替予約契約、通貨スワップ契約、通貨オプション契約（以下、為替デリバティブ）を使用しております。

金利変動リスク：

当社及び子会社は、固定金利での貸付または借入に係る公正価額変動リスク、もしくは将来の金利率変動に伴うキャッシュ・フロー変動リスクを軽減するために、金利スワップ契約及び金利オプション契約（以下、金利デリバティブ）を使用しております。

商品相場変動リスク：

当社及び子会社は、相場商品の価格変動リスクを軽減するために、商品先物契約、商品先渡契約、コモディティスワップ契約及びコモディティオプション契約（以下、商品デリバティブ）を使用しております。

また、当社及び子会社は、トレーディング目的で、為替デリバティブ、金利デリバティブ、商品デリバティブ等を使用しております。

ASCトピック815「デリバティブとヘッジ」は、すべてのデリバティブを貸借対照表において、その公正価額で資産または負債として認識することを要求しております。加えて、公正価額ヘッジに指定され、かつ適格なデリバティブの公正価額の変動は、ヘッジ対象の公正価額の変動とともに損益に計上し、キャッシュ・フローヘッジとして指定され、かつ適格なデリバティブの公正価額の変動は「累積その他の包括損益」に計上され、「累積その他の包括損益」に計上された金額はヘッジ対象が損益に影響を与えるのと同じの期間に損益に再分類するものと規定しております。

当社及び子会社は、ASCトピック815「デリバティブとヘッジ」に従い、保有するデリバティブについて、次のとおりヘッジ指定をしております。

為替デリバティブ：

未認識の確定約定見合いの為替デリバティブは、公正価額ヘッジとして指定し、予定取引見合いの為替デリバティブは、キャッシュ・フローヘッジとして指定しております。前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末において、公正価額ヘッジとして指定され、かつ適格な為替デリバティブの想定元本残高合計はそれぞれ82,606百万円、78,021百万円、キャッシュ・フローヘッジとして指定され、かつ適格な為替デリバティブの想定元本残高合計はそれぞれ178,714百万円、188,877百万円、ヘッジ手段として指定されていない、または不適格な為替デリバティブの想定元本残高合計はそれぞれ247,402百万円、221,899百万円となっております。

金利デリバティブ：

固定金利での貸付または借入に係る公正価額変動リスクをヘッジするための金利デリバティブは、公正価額ヘッジとして指定し、将来の金利率変動に伴うキャッシュ・フロー変動リスクをヘッジするための金利デリバティブは、キャッシュ・フローヘッジとして指定しております。前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末において、公正価額ヘッジとして指定され、かつ適格な金利デリバティブの想定元本残高合計はそれぞれ752,490百万円、756,500百万円、キャッシュ・フローヘッジとして指定され、かつ適格な金利デリバティブの想定元本残高合計はそれぞれ11,483百万円、20,852百万円、ヘッジ手段として指定されていない、または不適格な金利デリバティブの想定元本残高合計はそれぞれ13,186百万円、19,573百万円となっております。

商品デリバティブ：

未認識の確定約定及びたな卸資産見合いの商品デリバティブは、公正価額ヘッジとして指定し、予定取引見合いの商品デリバティブは、キャッシュ・フローヘッジとして指定しております。前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末において、公正価額ヘッジとして指定され、かつ適格な商品デリバティブの想定元本残高合計はそれぞれ116,247百万円、187,393百万円、キャッシュ・フローヘッジとして指定され、かつ適格な商品デリバティブの想定元本残高合計はそれぞれ24,533百万円、17,914百万円、ヘッジ手段として指定されていない、または不適格な商品デリバティブの想定元本残高合計はそれぞれ1,047,702百万円、1,068,919百万円となっております。

(1) デリバティブの公正価額

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末におけるデリバティブの公正価額は、次のとおりです。

	前連結会計年度末 (百万円)		当第3四半期連結会計期間末 (百万円)	
	デリバティブ資産	デリバティブ負債	デリバティブ資産	デリバティブ負債
ヘッジ手段として指定され、かつ適格なデリバティブ				
為替デリバティブ	21,329	1,152	36,400	4,580
金利デリバティブ	29,080	692	20,625	652
商品デリバティブ	1,899	985	3,108	2,343
合計	52,308	2,829	60,133	7,575
ヘッジ手段として指定されていない、または不適格なデリバティブ				
為替デリバティブ	16,872	14,793	19,658	10,285
金利デリバティブ	216	222	1,782	266
商品デリバティブ	10,967	11,736	10,065	11,448
その他	17	14	-	2
合計	28,072	26,765	31,505	22,001
連結貸借対照表計上額	80,380	29,594	91,638	29,576
マスター・ネットリング契約等により将来相殺される可能性がある金額				
デリバティブ	7,163	7,163	9,693	9,693
差入現金担保及び 預り現金担保	278	122	-	1,506
純額	72,939	22,309	81,945	18,377

連結貸借対照表上、デリバティブ資産はその他の流動資産及びその他の資産、デリバティブ負債はその他の流動負債及び長期債務に含めて表示しております。

当社及び子会社のデリバティブ取引はマスター・ネットリング契約またはそれに類似する契約に基づいて行われており、契約当事者間で決済の不履行が起きた場合は当該客先の債権債務を純額で決済することとなっております。

(2) デリバティブ関連損益

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間並びに前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間におけるデリバティブ関連損益は、次のとおりです。

① 公正価額ヘッジに指定され、かつ適格なデリバティブ

	前第3四半期連結累計期間 (百万円)	
	損益として認識された デリバティブ損益の計上科目	損益として認識された デリバティブ損益の金額
為替デリバティブ	その他の損益	1,630
金利デリバティブ	支払利息	10,374
商品デリバティブ	売買取引に係る差損益及び手数料	△258
合計		11,746

	当第3四半期連結累計期間 (百万円)	
	損益として認識された デリバティブ損益の計上科目	損益として認識された デリバティブ損益の金額
為替デリバティブ	その他の損益	3,353
金利デリバティブ	支払利息	△3,159
商品デリバティブ	売買取引に係る差損益及び手数料	1,417
合計		1,611

	前第3四半期連結会計期間 (百万円)	
	損益として認識された デリバティブ損益の計上科目	損益として認識された デリバティブ損益の金額
為替デリバティブ	その他の損益	2,389
金利デリバティブ	支払利息	551
商品デリバティブ	売買取引に係る差損益及び手数料	△587
合計		2,353

	当第3四半期連結会計期間 (百万円)	
	損益として認識された デリバティブ損益の計上科目	損益として認識された デリバティブ損益の金額
為替デリバティブ	その他の損益	3,057
金利デリバティブ	支払利息	△284
商品デリバティブ	売買取引に係る差損益及び手数料	236
合計		3,009

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間並びに前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間に、ヘッジの効果が有効でないため、またはヘッジの有効性の評価から除外されたために、損益に計上された金額に重要性はありません。

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間並びに前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間に、確定契約が公正価額ヘッジとして不適格になったことにより、損益に計上された金額に重要性はありません。

② キャッシュ・フローヘッジに指定され、かつ適格なデリバティブ

	前第3四半期連結累計期間 (百万円)		
	「その他の包括損益」 で認識された デリバティブ損益の金額	「累積その他の包括損益」 から損益に 再分類された損益の計上科目	「累積その他の包括損益」 から損益に 再分類された損益の金額
為替デリバティブ	3,264	その他の損益	△1,021
金利デリバティブ	310	支払利息	△146
商品デリバティブ	△113	売買取引に係る差損益 及び手数料	△973
合計	3,461		△2,140

	当第3四半期連結累計期間 (百万円)		
	「その他の包括損益」 で認識された デリバティブ損益の金額	「累積その他の包括損益」 から損益に 再分類された損益の計上科目	「累積その他の包括損益」 から損益に 再分類された損益の金額
為替デリバティブ	316	その他の損益	△2,777
金利デリバティブ	△74	支払利息	237
商品デリバティブ	△548	売買取引に係る差損益 及び手数料	637
合計	△306		△1,903

	前第3四半期連結会計期間 (百万円)		
	「その他の包括損益」 で認識された デリバティブ損益の金額	「累積その他の包括損益」 から損益に 再分類された損益の計上科目	「累積その他の包括損益」 から損益に 再分類された損益の金額
為替デリバティブ	2,097	その他の損益	△650
金利デリバティブ	229	支払利息	△199
商品デリバティブ	1,034	売買取引に係る差損益 及び手数料	△698
合計	3,360		△1,547

	当第3四半期連結会計期間 (百万円)		
	「その他の包括損益」 で認識された デリバティブ損益の金額	「累積その他の包括損益」 から損益に 再分類された損益の計上科目	「累積その他の包括損益」 から損益に 再分類された損益の金額
為替デリバティブ	2,239	その他の損益	△965
金利デリバティブ	96	支払利息	70
商品デリバティブ	371	売買取引に係る差損益 及び手数料	△91
合計	2,706		△986

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間並びに前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間に、ヘッジの効果が有効でないため、またはヘッジの有効性の評価から除外されたために、損益に計上された金額に重要性はありません。

「累積その他の包括損益」に含まれているデリバティブ純損失のうち、12か月以内に損益に振替えられ、ヘッジ対象から生じる損益を調整すると見込まれる金額（税効果控除前）は2,409百万円（利益）です。

当第3四半期連結会計期間末において、予定取引（現存する金融商品に係る金利の受払を除く）に係る当社及び子会社の将来キャッシュ・フローの変動をヘッジする最長期間は約15か月以内です。

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間並びに前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間に、予定取引の発生が見込まれなくなったため、「累積その他の包括損益」から損益に再分類された金額に重要性はありません。

③ ヘッジ指定されていないまたは不適格なデリバティブ

	前第3四半期連結累計期間 (百万円)	
	損益として認識された デリバティブ損益の計上科目	損益として認識された デリバティブ損益の金額
為替デリバティブ	売買取引に係る差損益及び手数料 その他の損益	1,504 1,556
金利デリバティブ	その他の損益	△11
商品デリバティブ	売買取引に係る差損益及び手数料	△1,764
その他	その他の損益	△38
合計		1,247

	当第3四半期連結累計期間 (百万円)	
	損益として認識された デリバティブ損益の計上科目	損益として認識された デリバティブ損益の金額
為替デリバティブ	売買取引に係る差損益及び手数料 その他の損益	587 13,615
金利デリバティブ	その他の損益	1,997
商品デリバティブ	売買取引に係る差損益及び手数料	2,355
その他	その他の損益	△44
合計		18,510

	前第3四半期連結会計期間 (百万円)	
	損益として認識された デリバティブ損益の計上科目	損益として認識された デリバティブ損益の金額
為替デリバティブ	売買取引に係る差損益及び手数料 その他の損益	56 951
金利デリバティブ	その他の損益	△4
商品デリバティブ	売買取引に係る差損益及び手数料	△1,743
その他	その他の損益	△33
合計		△773

	当第3四半期連結会計期間 (百万円)	
	損益として認識された デリバティブ損益の計上科目	損益として認識された デリバティブ損益の金額
為替デリバティブ	売買取引に係る差損益及び手数料	453
	その他の損益	5,729
金利デリバティブ	その他の損益	1,957
商品デリバティブ	売買取引に係る差損益及び手数料	590
その他	その他の損益	△18
合計		8,711

当社及び子会社は、多様なデリバティブを有しており、契約相手による契約不履行の際に生じる信用リスクにさらされておりますが、信用リスクを最小限にするために、優良な相手先に限定して取引を行うとともに、特定の相手またはグループに対する信用リスクの過度な集中を避けております。また、社内規定に基づき、相手先ごとの信用度及び与信状況を監視しております。

当社及び子会社が保有するデリバティブにおいて、信用格付の引下げ等に起因してデリバティブの即時決済または担保の提供を要求されるものではありません。加えて、売り手として関与している信用デリバティブについては、記載すべき重要な事項はありません。

12 公正価額の測定

(1) 公正価額の測定

ASCトピック820「公正価額の測定及び開示」は、公正価額の定義を「測定日における市場参加者の間での通常の取引において、資産を売却する対価として受取るであろう価格、または負債を移転する対価として支払うであろう価格」としたうえで、公正価額を、その測定のために使われるインプット情報における外部からの観察可能性に応じて、次の3つのレベルに区分することを規定しております。

- ・レベル1：活発な市場における同一資産または同一負債に係る相場価格を無調整で採用しているもの。
 - ・レベル2：レベル1に含まれる相場価格以外の、直接的または間接的に外部から観察可能なインプット情報のみを用いて算定される公正価額。
 - ・レベル3：一部、外部から観察不能なインプット情報も用いて算定される公正価額。
- 当社及び子会社は、入手し得る最善の見積り情報に基づき公正価額を測定し、その妥当性及び合理性を検討したうえで、適切な承認プロセスを経て公正価額を決定しております。

① 経常的に公正価額で測定される資産及び負債

当社及び子会社が経常的に公正価額で測定している資産及び負債は、売買目的有価証券、売却可能有価証券、デリバティブ資産及び負債等で構成されております。

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における、経常的に公正価額で測定される資産及び負債に係る公正価額のレベル別内訳は次のとおりです。

	前連結会計年度末 (百万円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
資産：				
現金同等物	—	14,997	—	14,997
売買目的有価証券	—	—	106	106
売却可能有価証券：				
株式	278,034	386	—	278,420
債券	—	4,891	1,870	6,761
デリバティブ資産	9,549	70,831	—	80,380
負債：				
デリバティブ負債	8,768	20,826	—	29,594

	当第3四半期連結会計期間末 (百万円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
資産：				
現金同等物	—	22,998	—	22,998
売買目的有価証券	—	—	7	7
売却可能有価証券：				
株式	281,631	2,707	—	284,338
債券	—	3,272	3,431	6,703
デリバティブ資産	8,147	83,491	—	91,638
負債：				
デリバティブ負債	8,196	21,380	—	29,576

上記内訳表における売却可能有価証券はその大部分が四半期連結貸借対照表の「その他の投資」に含まれておりますが、債券のうち満期が1年内に到来するものについては、四半期連結貸借対照表の「有価証券」に計上されております。

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間並びに前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間における、レベル3に分類されたものの推移は次のとおりです。

	前第3四半期連結累計期間 (百万円)	
	売買目的有価証券	売却可能有価証券
期首残高	303	2,022
損益合計(実現/未実現)	△37	560
四半期純利益(投資及び有価証券に係る損益)に含まれるもの	△37	—
その他の包括損益(未実現有価証券損益)に含まれるもの	—	560
購入	—	793
売却	△9	△100
償還/その他	△68	△1,592
為替換算による影響	6	—
期末残高	195	1,683
四半期純利益(投資及び有価証券に係る損益)に含まれる損益のうち、前第3四半期連結会計期間末において保有する資産及び負債の未実現損益	△29	—

	当第3四半期連結累計期間 (百万円)	
	売買目的有価証券	売却可能有価証券
期首残高	106	1,870
損益合計(実現/未実現)	1	263
四半期純利益(投資及び有価証券に係る損益)に含まれるもの	1	—
その他の包括損益(未実現有価証券損益)に含まれるもの	—	263
購入	—	1,523
売却	△5	—
償還/その他	△100	△225
為替換算による影響	5	—
期末残高	7	3,431
四半期純利益(投資及び有価証券に係る損益)に含まれる損益のうち、当第3四半期連結会計期間末において保有する資産及び負債の未実現損益	—	—

	前第3四半期連結会計期間 (百万円)	
	売買目的有価証券	売却可能有価証券
四半期首残高	227	1,165
損益合計(実現/未実現)	△29	115
四半期純利益(投資及び有価証券に係る損益)に含まれるもの	△29	—
その他の包括損益(未実現有価証券損益)に含まれるもの	—	115
購入	—	403
売却	—	—
償還/その他	△25	—
為替換算による影響	22	—
四半期末残高	195	1,683
四半期純利益(投資及び有価証券に係る損益)に含まれる損益のうち、前第3四半期連結会計期間末において保有する資産及び負債の未実現損益	△29	—

	当第3四半期連結会計期間 (百万円)	
	売買目的有価証券	売却可能有価証券
四半期首残高	25	2,449
損益合計(実現/未実現)	△1	209
四半期純利益(投資及び有価証券に係る損益)に含まれるもの	△1	—
その他の包括損益(未実現有価証券損益)に含まれるもの	—	209
購入	—	809
売却	—	—
償還/その他	△18	△36
為替換算による影響	1	—
四半期末残高	7	3,431
四半期純利益(投資及び有価証券に係る損益)に含まれる損益のうち、当第3四半期連結会計期間末において保有する資産及び負債の未実現損益	—	—

経常的な公正価額の評価手法は次のとおりです。

現金同等物は、主として当初決済期日が3か月以内の商業・ペーパーであり、流通市場における相場価格を使用して公正価額を測定しており、レベル2に分類しております。

売買目的有価証券及び売却可能有価証券は、主として取引所において取引されている株式及び債券と、オルタナティブ投資等により構成されております。取引所に上場されている銘柄は、取引所における相場価格を公正価額に使用しており、このうち、取引が頻繁に行われている活発な市場での相場価格が入手できるものはレベル1に分類し、取引頻度が少ない市場での相場価格を使用しているものはレベル2に分類しております。また、オルタナティブ投資等(保有目的により売買目的有価証券あるいは売却可能有価証券に区分)は、期末日現在で利用できる市場データの他、投資先における将来キャッシュ・フロー見通し等の外部より観察不能なインプット情報を用いて公正価額を測定し、レベル3に分類しております。

デリバティブ資産及びデリバティブ負債は、主として為替デリバティブ、金利デリバティブ、商品デリバティブにより構成されております。このうち、取引所において取引が行われているものは当該取引相場価格を公正価額に使用し、レベル1に分類しております。それ以外のデリバティブは、外部より観察可能なインプット情報のみに基づき、ブラック・ショールズ・モデル等の一般的な公正価額算定モデルを用いて公正価額を測定し、レベル2に分類しております。

② 非経常的に公正価額で測定される資産及び負債

非経常的に公正価額で測定される資産及び負債のうち、前連結会計年度及び当第3四半期連結累計期間に公正価額での測定を行ったものに係る公正価額のレベル別内訳は次のとおりです。

	前連結会計年度末 (百万円)		
	レベル3	合計	減損損失 (税効果控除前)
資産：			
市場性のない投資 (注) 1	1,203	1,203	2,258
持分法適用関連会社に対する投資 (注) 2	867	867	549
長期性資産 (注) 3	12,193	12,193	6,570
のれん及びその他の無形資産 (注) 4	1,198	1,198	2,101

	当第3四半期連結会計期間末 (百万円)		
	レベル3	合計	減損損失 (税効果控除前)
資産：			
市場性のない投資 (注) 1	237	237	734
長期性資産 (注) 3	2,486	2,486	4,079

- (注) 1 市場性のない投資は、公正価額が帳簿価額を下回り、公正価額の下落が一時的でないとは判断されたものについて公正価額まで減損処理を行ったものです。これらの公正価額は、当該投資先の将来の収益性見通し及び対象銘柄における純資産価額、当該投資先が保有する主要資産の実勢価額等の外部より観察不能なインプット情報を総合的に考慮したうえで、算定しております。
- 2 持分法適用関連会社に対する投資は、公正価額が帳簿価額を下回り、公正価額の下落が一時的でないとは判断されたものについて公正価額まで減損処理を行ったものです。これらの公正価額は、当該投資先の将来キャッシュ・フロー見通しに基づく測定金額を基礎に、金融商品取引所での相場価格等も総合的に考慮して算定しております。将来キャッシュ・フローに基づく測定は観察不能なインプット情報に基づいておりますが、前提データは測定日において当社が入手し得る最善の見積り情報を基礎とし、また、外部の専門家も起用したうえで、その測定結果の妥当性及び合理性を検討しております。
- 3 長期性資産の公正価額は、主として当該資産の事業の用に供した結果及び売却等により生じるであろう見積キャッシュ・フロー等の観察不能なインプット情報を使用し、総合的に考慮したうえで算定しております。
- 4 のれん及びその他の無形資産の公正価額は、主として事業計画等に基づく観察不能なインプット情報を使用した、割引キャッシュ・フローにより算定しております。

(2) 金融商品の公正価額

当社及び子会社は、多種の金融商品を有しており、契約相手による契約不履行の際に生ずる信用リスクにさらされておりますが、特定の相手またはグループに対する信用リスクの過度な集中を避けるため、多数の相手と取引を行っております。

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末におけるその他の長期債権及び関連会社に対する長期債権並びに長期債務の帳簿価額とASCトピック825「金融商品」に従い見積った公正価額、及びそれらの算出方法は次のとおりです（なお、有価証券及びその他の投資の公正価額については「四半期連結財務諸表注記 3 有価証券及び投資」、デリバティブ資産及びデリバティブ負債の公正価額については「四半期連結財務諸表注記 11 デリバティブ及びヘッジ活動」、それらの算出方法については前項「(1) 公正価額の測定」をご参照ください）。

	前連結会計年度末 (百万円)		当第3四半期連結会計期間末 (百万円)	
	帳簿価額	公正価額	帳簿価額	公正価額
金融資産： その他の長期債権及び関連会社 に対する長期債権 (貸倒引当金控除後)	106,093	107,879	139,227	141,410
金融負債： 長期債務 (1年内期限到来分を含む)	2,401,463	2,409,078	2,569,757	2,575,856

・その他の長期債権及び関連会社に対する長期債権の公正価額の評価手法

その他の長期債権及び関連会社に対する長期債権の公正価額は、同程度の信用格付けを有する貸付金または顧客に同一の残存期間で同条件の貸付または信用供与を行う場合において現在適用される市場での金利に基づいて、将来のキャッシュ・フローを割引くことにより見積っており、レベル2に分類しております。また、貸倒引当金を設定しているその他の長期債権及び関連会社に対する長期債権についてはレベル3に分類しております（貸倒引当金については「四半期連結財務諸表注記 4 金融債権」をご参照ください）。

・長期債務の公正価額の評価手法

長期債務の公正価額は、同一の残存期間を有する債務を当社が調達する場合において現在適用される市場での金利に基づいて見積っており、レベル2に分類しております。

なお、有価証券以外の流動金融資産及び負債については、満期または決済までの期間が短期であるため、帳簿価額は公正価額とほぼ同額です。

13 変動持分事業体

当社及び子会社は、特別目的事業体を通じて船舶運航事業及び不動産開発事業等に従事しており、また、第三者への貸付を行っております。これらの特別目的事業体はASCトピック810「連結」に規定される変動持分事業体に該当し、当社及び子会社は、これらの特別目的事業体に対して投資、貸付、保証等を行うことで変動持分を保有しております。

当社及び子会社は、ASCトピック810「連結」の規定に基づき、当社グループからの投資、貸付、保証等のエクスポージャーがあり、当社グループが当該事業体の資産及び負債の変動から生じる経済的な損失を負担する義務もしくは利益を享受する権利を有する事業体のうち、当該事業体から生じるリスクに対して当該事業体の資本が十分でない、または当該事業体の資本の出資者がその事業体を有効に支配できていない事業体を、関与開始時点に変動持分事業体として識別しております。

また、当該変動持分事業体に関連する契約関係等を変動持分事業体ごとに検討し、当社及び子会社が当該変動持分事業体の経済実績に最も重要な影響を与える事業活動に対して指揮する権限を有しており、かつ当該変動持分事業体にとって潜在的に重要となる可能性のある損失を負担する義務、もしくは当該変動持分事業体にとって潜在的に重要となる可能性のある利益を享受する権利を有している場合、当社及び子会社は当該変動持分事業体の主たる受益者に該当するものと判定しております。

当社及び子会社の変動持分事業体と識別した事業体に対し、契約上当社及び子会社に履行義務はないものの、実際には行っている、もしくは将来行う可能性のある支援はありません。また、当第3四半期連結会計期間末において、既存の変動持分事業体について契約関係等を再検討した結果、当社及び子会社が主たる受益者となるかどうかの判断結果が変更となったものはありません。

当第3四半期連結会計期間末における、変動持分事業体のうち当社及び子会社が主たる受益者に該当する事業体は、主として不動産開発事業を目的とした事業体です。当該変動持分事業体の前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における総資産は、それぞれ27,535百万円及び25,608百万円であり、主な内訳はたな卸資産です。なお、これらの変動持分事業体の債権者及び受益持分所有者は、当社及び子会社に対する遡及権を有しておりません。

また、当社及び子会社は、従来より主として船舶運航事業及び不動産開発事業を目的とした、当社及び子会社が主たる受益者に該当しない変動持分事業体を保有しております。当該変動持分事業体のうち、当社及び子会社が重要な変動持分を有する変動持分事業体の前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における総資産は、それぞれ370,009百万円及び402,311百万円です。また、当該変動持分事業体に対する前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における最大エクスポージャーは、それぞれ30,508百万円及び33,131百万円です。これらの変動持分事業体に対する連結貸借対照表における資産の計上額は、当第3四半期連結会計期間末は前連結会計年度末と比較して重要な変動はありません。なお、最大エクスポージャーの内訳は、当社及び子会社からの投資、貸付、保証等であり、最大エクスポージャーの算出にあたっては、当該変動持分事業体に対する当社及び子会社の関与について、その契約関係等を総合的に判断しております。

14 契約残高及び偶発債務

当社及び子会社は、主にエネルギー関連、機械関連、化学品関連等の様々な商品に関して固定価格または変動価格による購入契約を締結しております。通常、これらの購入契約の見合いとして、販売先への販売契約を取付けております。

当社及び子会社は、持分法適用関連会社及び一般取引先に対し、種々の形態の保証を行っております。主たる保証は、これらの被保証先の外部借入金等に対して、信用補完として行う金銭債務保証です。被保証先が債務不履行に陥った場合、当社及び子会社に支払義務が発生します。当社及び子会社の前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における持分法適用関連会社及び一般取引先に対する保証のそれぞれの保証総額及び実保証額は次のとおりです。

なお、保証総額とは、被保証先との保証契約における最高支払限度枠の金額であり、当社及び子会社に支払義務が生じる可能性がある最大金額です。また、実保証額とは、当該最高支払限度枠の範囲内で被保証先が認識した債務額に基づく金額であり、第三者が当社及び子会社に対して差入れた再保証等を控除した実質的リスク負担額と考えられる金額です。

	金銭債務保証 (百万円)	前連結会計年度末	
		その他の保証 (百万円)	合計 (百万円)
持分法適用関連会社に対する保証：			
保証総額	75,932	18,278	94,210
実保証額	60,324	14,418	74,742
一般取引先に対する保証：			
保証総額	66,805	21,963	88,768
実保証額	54,154	18,014	72,168
合計：			
保証総額	142,737	40,241	182,978
実保証額	114,478	32,432	146,910

	金銭債務保証 (百万円)	当第3四半期 連結会計期間末	
		その他の保証 (百万円)	合計 (百万円)
持分法適用関連会社に対する保証：			
保証総額	80,197	19,294	99,491
実保証額	61,690	15,762	77,452
一般取引先に対する保証：			
保証総額	45,970	11,673	57,643
実保証額	39,068	7,294	46,362
合計：			
保証総額	126,167	30,967	157,134
実保証額	100,758	23,056	123,814

これらの債務保証に対して認識されている負債の金額は、前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末において、それぞれ3,939百万円及び3,457百万円です。

これらの債務保証には、当社が当社及び一部の子会社の従業員に対する福利厚生制度の一環として行っている、住宅融資制度に基づく住宅融資に対する債務保証が含まれております。仮に従業員が債務不履行に陥った場合、当社が保証を履行することが要求されます。保証総額は、前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末において、それぞれ6,365百万円及び6,011百万円ですが、当該保証契約について引当計上した金額はありません。

これらの保証を含めた持分法適用関連会社及び一般取引先に対する信用供与に対しては、当社では次のとおり、信用供与先の審査及び信用供与後のモニタリング等による管理を実施しております。

持分法適用関連会社への信用供与に対しては、一般取引先への信用供与とは区別して、事業投資に係るリスクエクスポージャーと捉え、当該事業の経営状況を踏まえた検討を行っております。従って、持分法適用関連会社に対する保証を実行するにあたっては、主管営業部署とは独立した事業管理統括部署等が個別に審査を行い、信用限度金額と有効期限を設定したうえで、実行することとしております。また、事業投資の経営状況や投資効率等に関して、少なくとも年1回、各事業会社について定期レビューを実施しております。なお、当第3四半期連結会計期間末における持分法適用関連会社に対する保証のうち、現時点において、保証差入先への保証履行を要求されている、あるいは被保証先たる持分法適用関連会社の経営状況の悪化に伴う追加保証差入が見込まれる重要なものはありません。

一般取引先への信用供与に対しては、個別案件ごとに営業部署とは独立した審査部署が事前審査を行ったうえで、個々の取引先の信用力に応じた信用限度を設定しております。また、信用限度には一定の有効期限を設定し、限度と債権の状況を定期的にモニタリングするとともに、回収状況及び滞留債権の状況を定期的にレビューしております。なお、当第3四半期連結会計期間末における一般取引先に対する保証のうち、現時点において、保証差入先への保証履行を要求されている重要なものはありません。

保証総額からは、当社及び子会社が差入れた保証に対して第三者が当社及び子会社に差入れた再保証等の金額は控除しておりません。第三者が当社及び子会社に差入れた再保証等の金額は、前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末において、それぞれ16,208百万円及び12,308百万円です。

当社及び子会社が、持分法適用関連会社及び一般取引先に対して行っている保証のうち、その期限が最長のものは平成50年7月15日に期限を迎えます。

なお、主要な持分法適用関連会社及び一般取引先の債務に対する金銭債務保証の実保証額は次のとおりです。

	前連結会計年度末 (百万円)		当第3四半期連結会計期間末 (百万円)
PANAVENFLOT CORP.	17,762	PANAVENFLOT CORP.	16,537
Consolidated Grain & Barge Co.	10,816	Consolidated Grain & Barge Co.	12,120
TUPI NORDESTE S. A. R. L.	10,146	PT. BHIMASENA POWER INDONESIA	10,551
サハリン石油ガス開発(株)	9,276	サハリン石油ガス開発(株)	6,740
PT. BHIMASENA POWER INDONESIA	8,714	JAPAN ALUMINA ASSOCIATES (AUSTRALIA) PTY LTD	6,738
JAPAN ALUMINA ASSOCIATES (AUSTRALIA) PTY LTD	8,218	CLEOPATRA LNG SHIPPING CO., LTD.	6,387
CLEOPATRA LNG SHIPPING CO., LTD.	5,699	NEFERTITI LNG SHIPPING CO., LTD.	6,387
NEFERTITI LNG SHIPPING CO., LTD.	5,699	BLUE CYPRESS LINE S. A.	3,369
BLUE CYPRESS LINE S. A.	3,561	TRINITY BULK S. A.	2,681
TRINITY BULK S. A.	2,777	北京聯拓奧通汽車貿易有限責任公司	2,597

受取手形の割引及び裏書譲渡の金額は、前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末において、それぞれ1,850百万円及び499百万円であり、また、輸出手形割引の残高は、前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末において、それぞれ86,233百万円及び103,233百万円です。

なお、当社及び子会社は、事業売却や譲渡の過程において偶発損失を補償する契約を締結することがありますが、金額の取決めがないことから、これらの契約に基づく潜在的な最大支払額の見積りは困難です。また、既に補償の履行を求められているものを除いて、発生の可能性は僅少と考えられるため、負債は計上していません。

当社グループの財政状態や業績に重大な影響を及ぼすおそれのある訴訟、仲裁その他の法的手続は現在ありません。しかしながら、当社グループの国内及び海外における営業活動等が今後係る重要な訴訟等の対象となり、将来の当社グループの財政状態や業績に悪影響を及ぼす可能性が無いことを保証するものではありません。

なお、当社の持分法適用関連会社であるNacional Minérios S. A. が、平成24年12月にブラジル税務当局より受領したタックス・アセスメントにつきましては、第89期有価証券報告書連結財務諸表注記5「関連会社に対する投資及び長期債権」に記載した内容から重要な変更はありません。

15 重要な後発事象

当社の四半期連結財務諸表が発行できる状態となった平成26年2月14日までの期間において後発事象の評価を行った結果、該当する事項は次のとおりです。

当社は平成25年5月16日に開催された取締役会の決議に基づき、発行価額の総額が30,000百万円の平成33年満期0.560%利付普通社債を、平成26年1月31日に日本で発行しました。

2 【その他】

平成25年11月5日開催の取締役会において、平成25年9月30日現在の株主に対し、1株当たり21円、総額33,217百万円の現金配当を行うことを決議し、平成25年12月2日に支払いを行いました。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月14日

伊藤忠商事株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石塚雅博 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 勝島康博 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 永山晴子 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山田博之 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている伊藤忠商事株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括損益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」附則第4条の規定により米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（「四半期連結財務諸表が準拠している用語、様式及び作成方法」参照）に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（「四半期連結財務諸表が準拠している用語、様式及び作成方法」参照）に準拠して、伊藤忠商事株式会社及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。